

(様式第10)

厚生労働大臣 殿

日医大病付(庶)第428号
令和 7 年 10 月 3 日
開設者名 学校法人日本医科大学
理事長 汲田 伸一郎

日本医科大学付属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和6年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒113-8603 東京都文京区千駄木一丁目1番5号
氏名	学校法人日本医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

日本医科大学付属病院

3 所在の場所

〒113-8603 東京都文京区千駄木一丁目1番5号
電話(03) 3822 -2131

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

☐	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
☐	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科					有		
内科と組み合わせた診療科名等							
☐	1呼吸器内科		2消化器内科	☐	3循環器内科	☐	4腎臓内科
	5神経内科	☐	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			☐	11リウマチ科
診療実績							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科	○	7内分泌外科		8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科		3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							
口腔科(周術期)							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	脳神経内科	2	消化器・肝臓内科	3	内分泌代謝内科	4	老年内科	5	漢方内科
6	形成外科	7	リハビリテーション科	8	病理診断科	9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
27	0	0	0	850	877

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	687	191	702.2	看護補助者	72	診療エックス線技師	0
歯科医師	3	5	3.4	理学療法士	31	臨床検査技師	107
薬剤師	84	1	84	作業療法士	10	衛生検査技師	0
保健師	0	0	0	視能訓練士	9	その他	0
助産師	32	0	32	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	1,256	1	1,257	臨床工学士	48	医療社会事業従事者	0
准看護師	1	0	1	栄養士	2	その他の技術員	27
歯科衛生士	4	0	4	歯科技工士	0	事務職員	220
管理栄養士	14	0	14	診療放射線技師	73	その他の職員	33

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	67	眼科専門医	10
外科専門医	57	耳鼻咽喉科専門医	9
精神科専門医	6	放射線科専門医	12
小児科専門医	13	脳神経外科専門医	9
皮膚科専門医	4	整形外科専門医	8
泌尿器科専門医	13	麻酔科専門医	18
産婦人科専門医	17	救急科専門医	16
		合計	259

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (山口 博樹) 任年月日 令和 7 年 6 月 1 日

医療安全管理部部長、医療安全管理責任者、
医療安全管理委員会委員長
令和5年10月1日から令和7年5月31日

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	750 人	0 人	750 人
1日当たり平均外来患者数	1,682.8 人	25.8 人	1,708.6 人
1日当たり平均調剤数	1,753.3		剤
必要医師数	172.9		人
必要歯科医師数	1.29		人

必要薬剤師数	24	人
必要(准)看護師数	431.9	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条の一の管定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	4,618.17 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	96 床	心電計	有
			人工呼吸装置		心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置		ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	192.558 m ²	病床数	11 床	
	[移動式の場合]	台数	台			
医薬品情報 管理室	[専用室の場合]	床面積	24.56 m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	496.42 m ²		(主な設備)	検体前処理分注機、免疫化学分析装置、血液凝固測定装置		
細菌検査室	175.85 m ²		(主な設備)	血液培養装置、微生物分類同定分析装置、安全キャビネット		
病理検査室	468.77 m ²		(主な設備)	安全キャビネット、凍結切片作成装置、低温フリーザー等		
病理解剖室	80.1 m ²		(主な設備)	感染対策解剖台、肉眼撮影装置用、ホルマリン送液装置		
研究室	1,503 m ²		(主な設備)	病理組織額標本作成装置、細胞培養装置、オートクレーブ		
講義室	886.35 m ²		室数	4 室	収容定員	620 人
図書室	1,324 m ²		室数	6 室	蔵書数	100,000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	107.4	%	逆紹介率	69.5	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数		19,503 人		
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		15,619 人		
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		4,608 人		
	D: 初診の患者の数		22,442 人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の 要件 該当状 況
長島 隆	東洋大学名誉 教授 付属病院倫理 委員会委員	○	本法人と利害関係のない、医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者(規程第3条第1項第2号) 哲学、倫理学を専門とし、医療の公共性や医療倫理、医療現場における情報問題と情報倫理等に関する論文等を発表している。	無	1
小泉 博明	文京学院大学 名誉教授 付属病院倫理 委員会委員		本法人と利害関係のない、医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者(規程第3条第1項第2号) 日本思想や生命倫理教育を専門とし、「病における人間学」、「病者への眼差し」等をキーワードに、多数の論文を発表している。	無	1
櫻田 晋太郎	弁護士		本法人と利害関係のない、医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者(規程第3条第1項第2号) 医療問題弁護団に所属し、医療と人権をテーマに医療事件に関する調査、交渉、訴訟事件を多く取り扱っている。また、薬害肝炎弁護団に所属し、薬害の再発防止、個別救済等の取り組みにも力を入れている。	無	1
豊田 郁子	患者・家族と医療をつなぐNPO 法人架け橋理 事長		本法人と利害関係のない、医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(規程第3条第1項第3号) 自身が医療事故で子息を亡くした経験から、患者・家族と医療者間の対話の重要性を痛感し、患者の立場を代表する者として医療安全に関わる講演活動や公的な委員を務め、NPOでは医療対話推進者の養成に携わっている。	無	2
吉田 寛	付属病院副院 長(診療・手術 担当)		付属病院の職員(規程第3条第1項第1号) 若手医師の指導及び中央手術部部長としての臨床現場の経験等より、医療安全監査委員として適任である。	有	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
学校法人のホームページにて公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
子宮内膜受容能検査	3人
子宮内細菌叢検査1	0人
子宮内細菌叢検査2	16人
タイムラプス撮像法による受精卵・胚培養	95人
膜構造を用いた生理学的精子選択術	20人
内視鏡的胃局所切除術	1人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類の合計数	6
扱い患者数の合計(人)	135人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん (ステージがⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	10人
テネクテプラーゼ静脈内投与療法 脳梗塞 (発症から四・五時間以内のものに限る。)	2人
自家骨髄単核球移植による血管再生治療 全身性強皮症 (難治性皮膚潰瘍を伴うものに限る。)	0人
自家骨髄単核球移植による血管再生治療 包括的高度慢性下肢虚血 (閉塞性動脈硬化症に伴うものに限る。)	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類の合計数	4
取扱い患者数の合計(人)	12人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	低心機能症例における難治性心室性不整脈に対するカテーテルアブレーション	取扱患者数	14
当該医療技術の概要 電氣的除細動抵抗性の致死性心室性不整脈Electrical Storm 状態における緊急・準緊急カテーテルアブレーション			
医療技術名	経皮的中隔心筋焼灼術	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 薬剤抵抗性の左室内圧較差を認める閉塞性肥大型心筋症に対する経カテーテル的治療法			
医療技術名	CTガイド下肺腫瘍、小径腎癌に対するラジオ波焼灼術(RFA)	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 手術適応外または定位放射線治療困難な原発性・転移性肺腫瘍、小径腎癌に対し、CTガイド下に電極針を穿刺し、高周波エネルギーで腫瘍組織を凝固壊死させる低侵襲な局所治療。保険収載後も、高度な穿刺技術・呼吸移動管理・合併症対策が必要であり、専門的訓練を受けたIVR医師による施行が求められる。治療完結性が高く、複数病変や高齢・合併症患者において標準治療を補完する有用な選択肢である。			
医療技術名	Indigoシステムを用いた末梢動脈血栓除去術	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 急性下肢動脈閉塞および急性上腸間膜動脈閉塞に対し、Penumbra社製Indigo血栓除去システムを用いて迅速な血栓吸引を行い、血流再開を図る低侵襲治療。血栓溶解剤を用いないため出血リスクが少なく、腸管虚血や四肢切断の回避に有効。高い緊急対応能力と専用デバイス操作技術が必要であり、施行可能施設が限られるため、当院における高度の医療として実施。			
医療技術名	修正型電気けいれん療法	取扱患者数	37
当該医療技術の概要 全身麻酔及び筋弛緩薬使用下でパルス波治療器を用いて通電することで脳神経細胞を刺激し、うつ病や緊張病等の病状を改善させる治療法。当院精神神経科は都内有数の治療実績があり、中高年の身体合併症のある患者に積極的に使用し、高い改善率を示している。			
医療技術名	レケンビ・ケサンラを用いたアルツハイマー病治療	取扱患者数	37
当該医療技術の概要 アルツハイマー病による認知症ならびに軽度認知障害を対象とし、脳内に蓄積したアミロイドβタンパク質を除去する効果を持つアミロイドβ凝集体モノクローナル抗体を2週間に1度(レケンビ)、4週間に1度(ケサンラ)点滴静注する治療法。			
医療技術名	フローダイバータースtent留置術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 大型や頸部の広い脳動脈瘤に対し、血流を変化させて動脈瘤の閉塞を促す新しい血管内治療法。			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	7
取り扱い患者数の合計(人)	120

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数		疾患名	患者数
1 球脊髄性筋萎縮症	2	56	ベーチェット病	73
2 筋萎縮性側索硬化症	10	57	特発性拡張型心筋症	35
3 脊髄性筋萎縮症	2	58	肥大型心筋症	68
4 原発性側索硬化症		59	拘束型心筋症	
5 進行性核上性麻痺	13	60	再生不良性貧血	30
6 パーキンソン病	145	61	自己免疫性溶血性貧血	4
7 大脳皮質基底核変性症	2	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	8
8 ハンチントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	48
9 神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	2
10 シャルコー・マリー・トゥース病	8	65	原発性免疫不全症候群	11
11 重症筋無力症	81	66	IgA 腎症	42
12 先天性筋無力症候群		67	多発性嚢胞腎	36
13 多発性硬化症／視神経脊髄炎	71	68	黄色靱帯骨化症	2
14 慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	23	69	後縦靱帯骨化症	18
15 封入体筋炎	2	70	広範脊柱管狭窄症	3
16 クロウ・深瀬症候群		71	特発性大腿骨頭壊死症	25
17 多系統萎縮症	8	72	下垂体性ADH分泌異常症	18
18 脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	22	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
19 ライソゾーム病	3	74	下垂体性PRL分泌亢進症	8
20 副腎白質ジストロフィー		75	クッシング病	8
21 ミトコンドリア病	2	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	
22 もやもや病	28	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	30
23 プリオン病		78	下垂体前葉機能低下症	99
24 亜急性硬化性全脳炎		79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	3
25 進行性多巣性白質脳症		80	甲状腺ホルモン不応症	
26 HTLV-1関連脊髄症		81	先天性副腎皮質酵素欠損症	3
27 特発性基底核石灰化症	1	82	先天性副腎低形成症	1
28 全身性アミロイドーシス	40	83	アジソン病	1
29 ウルリッヒ病		84	サルコイドーシス	84
30 遠位型ミオパチー		85	特発性間質性肺炎	95
31 ベスレムミオパチー		86	肺動脈性肺高血圧症	12
32 自己食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	
33 シュワルツ・ヤンペル症候群		88	慢性血栓性肺高血圧症	10
34 神経線維腫症	21	89	リンパ脈管腫症	1
35 天疱瘡	6	90	網膜色素変性症	17
36 表皮水疱症		91	バッド・キアリ症候群	3
37 膿疱性乾癬(汎発型)	5	92	特発性門脈圧亢進症	2
38 スティーヴンス・ジョンソン症候群		93	原発性胆汁性肝硬変	40
39 中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	5
40 高安静脈炎	13	95	自己免疫性肝炎	34
41 巨細胞性動脈炎	10	96	クローン病	74
42 結節性多発動脈炎	5	97	潰瘍性大腸炎	218
43 顕微鏡的多発血管炎	28	98	好酸球性消化管疾患	3
44 多発血管炎性肉芽腫症	11	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	
45 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	34	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46 悪性関節リウマチ	11	101	腸管神経節細胞減少症	
47 パージャール病	5	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	
48 原発性抗リン脂質抗体症候群	6	103	CFC症候群	
49 全身性エリテマトーデス	159	104	コステロ症候群	
50 皮膚筋炎／多発性筋炎	158	105	チャージ症候群	
51 全身性強皮症	254	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52 混合性結合組織病	47	107	全身型若年性特発性関節炎	15
53 シェーグレン症候群	47	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54 成人スチル病	15	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	
55 再発性多発軟骨炎	4	110	ブラウ症候群	
111 先天性ミオパチー		161	家族性良性慢性天疱瘡	2
112 マリネスコ・シェーグレン症候群		162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	8
113 筋ジストロフィー	4	163	特発性後天性全身性無汗症	1
114 非ジストロフィー性ミオトニー症候群		164	眼皮皮膚白皮症	
115 遺伝性周期性四肢麻痺		165	肥厚性皮膚骨膜炎	
116 アトピー性脊髄炎		166	弾性線維性仮性黄色腫	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

117	脊髄空洞症		167	マルファン症候群	4
118	脊髄髄膜瘤		168	エーラス・ダンロス症候群	14
119	アイザックス症候群		169	メンケス病	
120	遺伝性ジストニア		170	オクシピタル・ホーン症候群	
121	神経フェリチン症		171	ウィルソン病	
122	脳表ヘモジデリン沈着症		172	低ホスファターゼ症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症		173	VATER症候群	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	1	174	那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症		175	ウィーバー症候群	
126	ペリー症候群		176	コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症		177	有馬症候群	
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎		178	モワット・ウィルソン症候群	
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症		179	ウィリアムズ症候群	
130	先天性無痛無汗症		180	ATR-X症候群	
131	アレキサンダー病		181	クルーゾン症候群	
132	先天性核上性球麻痺		182	アペール症候群	
133	メビウス症候群		183	ファイファー症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群		184	アントレー・ビクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群		185	コフィン・シリス症候群	
136	片側巨脳症		186	ロスムンド・トムソン症候群	
137	限局性皮質異形成		187	歌舞伎症候群	
138	神経細胞移動異常症		188	多脾症候群	
139	先天性大脳白質形成不全症		189	無脾症候群	
140	ドラベ症候群		190	鰓耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		191	ウェルナー症候群	1
142	ミオクロニー欠伸てんかん		192	コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	1	193	ブラダー・ウィリ症候群	
144	レノックス・ガストー症候群		194	ソトス症候群	
145	ウエスト症候群		195	ヌーナン症候群	
146	大田原症候群		196	ヤング・シンプソン症候群	
147	早期ミオクロニー脳症		197	1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		198	4p欠失症候群	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		199	5p欠失症候群	
150	環状20番染色体症候群		200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスムッセン脳炎		201	アンジェルマン症候群	
152	PCDH19関連症候群		202	スミス・マギニス症候群	
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎		203	22q11.2欠失症候群	1
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症		204	エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群		205	脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群		206	脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群		207	総動脈幹遺残症	
158	結節性硬化症	2	208	修正大血管転位症	1
159	色素性乾皮症		209	完全大血管転位症	
160	先天性魚鱗癬		210	単心室症	1
211	左心低形成症候群	1	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症	1	260	システロール血症	
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	1	261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症		262	原発性高カイロミクロン血症	2
215	ファロー四徴症	1	263	脳髄黄色腫症	
216	両大血管右室起始症		264	無βリポタンパク血症	
217	エプスタイン病		265	脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群		266	家族性地中海熱	1
219	ギャロウェイ・モワト症候群		267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎	3	268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎		269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
222	一次性ネフローゼ症候群	53	270	慢性再発性多発性骨髄炎	
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	3	271	強直性脊椎炎	10

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

224	紫斑病性腎炎	5	272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症		273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)		274	骨形成不全症	
227	オスラー病	2	275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎		276	軟骨無形成症	
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)		277	リンパ管腫症/ゴーハム病	
230	肺胞低換気症候群		278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	$\alpha 1$ -アンチトリプシン欠乏症		279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合		280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
233	ウォルフラム症候群		281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	3
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症		283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症		284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		285	ファンconi貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		287	エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症		288	自己免疫性出血病XIII	3
241	高チロシン血症1型		289	クローンカイト・カナダ症候群	
242	高チロシン血症2型		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
243	高チロシン血症3型		291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸型)	
244	メープルシロップ尿症		292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症		293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症		294	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症		295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症		296	胆道閉鎖症	1
249	グルタル酸血症1型		297	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型		298	遺伝性膀胱炎	
251	尿素サイクル異常症		299	嚢胞性線維症	
252	リジン尿性蛋白不耐症		300	IgG4関連疾患	20
253	先天性葉酸吸収不全		301	黄斑ジストロフィー	
254	ポルフィリン症		302	レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		303	アッシュャー症候群	
256	筋型糖原病		304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病		305	遅発性内リンパ水腫	
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		306	好酸球性副鼻腔炎	80
307	カナバン病		319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	
308	進行性白質脳症		320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
309	進行性ミオクロームスてんかん		321	非ケトーシス型高グリシン血症	
310	先天異常症候群		322	β -ケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症		323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症		324	メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症		325	遺伝性自己炎症疾患	
314	左肺動脈右肺動脈起始症		326	大理石骨病	
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症		327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	3
316	カルニチン回路異常症		328	前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症		329	無虹彩症	
318	シトリン欠損症		330	先天性気管狭窄症	
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	12

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	331
合計患者数(人)	2,742

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 医療DX推進体制整備加算	・ 感染防止対策加算対策向上加算、指導強化加算
・ 救急医療管理加算	・ 患者サポート体制充実加算
・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・ 歯科外来診療環境体制加算	・ ハイリスク妊娠管理加算
・ 歯科診療特別対応連携加算	・ ハイリスク分娩管理加算
・ 歯科外来診療医療安全対策加算	・ 後発医薬品使用体制加算
・ 歯科外来診療感染対策加算	・ 病棟薬剤業務実施加算
・ 特定機能病院入院基本料	・ データ提出加算
・ 超急性期脳卒中加算	・ 入退院支援加算
・ 診療録管理体制加算	・ 認知症ケア加算
・ 医師事務作業補助体制加算	・ せん妄ハイリスク患者ケア加算
・ 急性期看護補助体制加算	・ 精神疾患診療体制加算
・ 看護職員夜間配置加算	・ 精神科急性期医師配置加算
・ 無菌治療室管理加算	・ 排尿自立支援加算
・ 放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	・ 地域医療体制確保加算
・ 緩和ケア診療加算	・ 救命救急入院料1
・ 精神科身体合併症管理加算	・ 救命救急入院料4
・ 精神科リエゾンチーム加算	・ 特定集中治療室管理料
・ 栄養サポートチーム加算	・ 脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・ 医療安全対策加算	・ 新生児特定集中治療室管理料
・ 感染防止対策加算	・ 新生児治療回復室入院医療管理料
・ 抗菌薬適正使用支援加算	・ 小児入院医療管理料
・ 摂食障害入院医療管理加算	・ 短期滞在手術等基本料1
・ 感染対策向上加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 外来栄養食事指導料	・ 周術期薬剤管理加算
・ 遠隔モニタリング加算(ペースメーカー指導管理料)	・ 病理診断管理加算
・ 糖尿病合併症管理料	・ 移植後患者指導管理料
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 慢性腎臓病透析予防指導管理料
・ がん患者指導管理料	・ 総合医療管理加算(歯科疾患管理料)
・ 外来緩和ケア管理料	・ がん治療連携計画策定料
・ 糖尿病透析予防指導管理料	・ 排尿自立指導料
・ 小児運動器疾患指導管理料	・ ハイリスク妊産婦共同管理料
・ 乳腺炎重症化予防・ケア指導料	・ ハイリスク妊産婦連携指導料1
・ 婦人科特定疾患治療管理料	・ ハイリスク妊産婦連携指導料2
・ 院内トリアージ実施料	・ こころの連携指導料
・ 腎代替療法指導管理料	・ 肝炎インターフェロン治療計画料
・ 一般不妊治療管理料	・ 薬剤管理指導料
・ 生殖補助医療管理料	・ 検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
・ 二次性骨折予防継続管理料1	・ 医療機器安全管理料1
・ 二次性骨折予防継続管理料2	・ 医療機器安全管理料2
・ 二次性骨折予防継続管理料3	・ 医療機器安全管理料(歯科)
・ 精神科退院時共同指導料	・ 在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
・ 救急搬送看護体制加算	・ 持続血糖測定器加算
・ 外来放射線照射診療料	・ 重症患者搬送加算
・ 外来腫瘍化学療法診療料	・ 救急患者連携搬送料
・ 連携充実加算	・ 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・ がん薬物療法体制充実加算	・ 長期継続頭蓋内脳波検査
・ ニコチン依存症管理料	・ 単線維筋電図

・ 相談支援加算(療養・就労両立支援指導料)	・ 神経学的検査
・ 遺伝学的検査	・ 補聴器適合検査
・ 骨髄微小残存病変量測定	・ ロービジョン検査判断料
・ 染色体検査の注2に規定する基準	・ 小児食物アレルギー負荷検査
・ BRCA1/2遺伝子検査	・ 内服・点滴誘発試験
・ ガンゲノムプロファイリング検査	・ センチネルリンパ節生検(片側)
・ 先天性代謝異常症検査	・ 検体検査管理加算(Ⅰ)
・ HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・ 検体検査管理加算(Ⅳ)
・ ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	・ 国際標準検査管理加算
・ 口腔細菌定量検査	・ 画像診断管理加算3
・ 歯科治療時医療管理料	・ 遺伝カウンセリング加算
・ 口腔粘膜処置	・ 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・ 遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・ 画像診断管理加算1
・ 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・ 画像診断管理加算4
・ 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・ 遠隔画像診断
・ 胎児心エコー法	・ CT撮影及びMRI撮影
・ ヘッドアップティルト試験	・ 冠動脈CT撮影加算
・ 皮下連続式グルコース測定	・ 血流予備量比コンピューター断層撮影
・ 小児鎮静下MRI撮影加算	・ 外傷全身CT加算
・ 頭部MRI撮影加算	・ 心臓MRI撮影加算
・ 全身MRI撮影加算	・ 乳房MRI撮影加算
・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・ エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)
・ 外来化学療法加算1	・ 人工腎臓
・ 無菌製剤処理料	・ 導入期加算
・ 心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・ 硬膜外自家血注入
・ 経気管支凍結生検法	・ 静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
・ 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・ 下肢末梢動脈疾患指導管理加算
・ 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・ 移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法

・ がん患者リハビリテーション料	・ ストーマ合併症加算
・ 集団コミュニケーション療法料	・ 緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
・ 磁気による膀胱等刺激法	・ 網膜再建術
・ 口腔粘膜処置	・ 人工中耳植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・ 療養生活継続支援加算(通院・在宅精神療法)	・ 内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻鏡手術)
・ 救急患者精神科継続支援料	・ 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・ 抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・ 内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・ 医療保護入院等診療料	・ 経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・ 難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	・ 植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・ 組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・ 緊急穿頭血腫除去術
・ 骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・ CAD/CAM冠
・ 人工股関節置換術(手術支援装置を用いるもの)	・ 皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)
・ 後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・ 皮膚移植術(死体)
・ 椎間版内酵素注入療法	・ 不整脈手術(左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの。))
・ エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・ 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・ 脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・ 植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術
・ 仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術	・ 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・ 内皮移植加算	・ 緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術))
・ 角結膜悪性腫瘍切除手術	・ 腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
・ 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・ 経皮的僧帽弁クリップ術
・ 内視鏡的逆流防止粘膜切除術	・ 磁気ナビゲーション加算
・ 腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・ 経皮的中隔心筋焼灼術

・ 腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・ 腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・ 内視鏡的小腸ポリープ切除術	・ 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・ 腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)	・ 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)、鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	・ 乳癌悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)
・ 内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)	・ 乳癌悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・ 胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・ ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・ 腹腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)	・ 胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・ 胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	・ 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので、内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・ 内視鏡下筋層切開術
・ 縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・ 食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・ 胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・ 経カテーテル大動脈弁置換術
・ 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・ 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ 胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術	・ 胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・ 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・ 腹腔鏡下総胆管拡張症手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・ 骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
・ 腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・ 腹腔鏡下仙骨腫固定術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ 腹腔鏡下膣式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・ 不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)に限る。)	・ 放射線治療専任加算

・ 腹腔鏡下仙骨腫固定術	・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・ 腹腔鏡下子宮癒痕修復術
・ 経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・ 胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・ 補助人工心臓	・ 腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・ 経皮的下肢動脈形成術	・ 生体部分肝移植術
・ 腹腔鏡下リンパ節群郭清術	・ 腹腔鏡下腓腫瘍摘出術及び腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・ 腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)	・ 腹腔鏡下腓頭腫瘍切除術
・ バルーン閉塞下経静脈的塞栓術	・ 腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ 腹腔鏡下腓中央切除術	・ 腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・ 尿道狭窄グラフト再建術
・ 腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・ 人工尿道括約筋植込・置換術
・ 腹腔鏡下肝切除術	・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・ 腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・ 輸血管管理料Ⅰ	・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ 輸血適正使用加算	・ 腹腔鏡下副腎摘出手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下副腎髓質腫瘍摘出手術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ 腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法	・ 精巣温存手術
・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)	・ 膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠経部切開によるもの)
・ 外来放射線治療加算	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術に対する乳房切除術)
・ 高エネルギー放射線治療	・ 体外式膜型人工肺管理料
・ 1回線量増加加算	・ 定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・ 強度変調放射線治療(IMRT)	・ 画像誘導密封小線源治療加算
・ 画像誘導放射線治療加算(IGRT)	・ 悪性腫瘍病理組織標本加算
・ 体外照射呼吸性移動対策加算	・ クラウン・ブリッジ維持管理料
・ 定位放射線治療	・ 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・ 膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)	・ 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・ レーザー機器加算の施設基準	・ 歯周組織再生誘導手術

・ 麻酔管理料(Ⅰ)	・ 外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
・ 麻酔管理料(Ⅱ)	・ 歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
・ 乳腺炎重症化予防ケア・指導料1	・ 入院ベースアップ評価料
・ 乳腺炎重症化予防ケア・指導料2	・ 下肢創傷処置管理料
・ 仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)	・ 腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	☒ 1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	115回	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	20例
	剖検率(%)	3.60%

1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で囲む等)こと
(注)2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
嚥下障害に対する新たな臨床展開ー食道刺激と高解像度インピーダンスマノメトリーー	青柳 陽一郎	リハビリテーション科	2,600,000	補助 委	文部科学省
新規アディポネクチン受容体結合タンパク質の機能解析と生活習慣病治療への応用	岩部 真人	糖尿病・内分泌代謝内科	4,030,000	補助 委	文部科学省
診療参加型実習、EPOC2に対応する医学生、研修医の外科手技自習プログラムの検討	清水 哲也	消化器外科	390,000	補助 委	文部科学省
2型糖尿病の新規病理仮説:膵β細胞でのCD36発現異常とインスリン分泌不全	長尾 元嗣	糖尿病・内分泌代謝内科	780,000	補助 委	文部科学省
乳癌の術前内分泌療法によるレスポンスガイドセラピーの臨床導入へ向けた研究	武井 寛幸	乳腺科	1,300,000	補助 委	文部科学省
固形癌に対する新しい光線力学免疫療法の開発	園川 卓海	呼吸器外科	520,000	補助 委	文部科学省
新型高清浄環境技術(CUSP)の高齢者総合医療への応用	安武 正弘	総合診療科	130,000	補助 委	文部科学省
統合失調症の概念形成および記憶統合障害に関与する神経基盤の計算論的検討	松本 有紀子	精神神経科	780,000	補助 委	文部科学省
虚血性心疾患に対する半定量的心筋血流SPECTでの心筋血流予備能の予測法の開発	福島 善光	放射線科	650,000	補助 委	文部科学省
放射線治療による肺機能低下を換気血流SPECT/CTとIMRTで低減可能か？	前林 勝也	放射線治療科	520,000	補助 委	文部科学省
バイオインフォマティクスを用いた非コードDNA解析による若年突然死の発症機序解明	村田 広茂	循環器内科	390,000	補助 委	文部科学省
インシリコモデルとテンソル心電図解析による早期再分極症候群の不整脈リスク分析	岩崎 雄樹	循環器内科	260,000	補助 委	文部科学省
肺線維化病態の新規治療戦略ー制御性遺伝子吸入と免疫担当細胞のクロストークの解明ー	神尾 孝一郎	呼吸器内科	780,000	補助 委	文部科学省
抗MDA5抗体陽性間質性肺疾患の病態に関わる細胞内シグナル伝達経路探索	五野 貴久	リウマチ・膠原病内科	780,000	補助 委	文部科学省
間葉系組織からの骨芽細胞分化に着目した強皮症石灰沈着症の機序解明と治療標的探索	白井 悠一郎	リウマチ・膠原病内科	1,560,000	補助 委	文部科学省
循環DNA, DNaseバランスからみた術後感染症およびその腫瘍学的予後悪化予測	松田 明久	消化器外科	910,000	補助 委	文部科学省
細胞外小胞を用いた空間的・時間的不均一性の解明	山田 岳史	消化器外科	1,040,000	補助 委	文部科学省
脾臓の抗腫瘍作用メカニズムの解明	吉田 寛	消化器外科	910,000	補助 委	文部科学省
消化管神経内分泌腫瘍の分子生物学的解析と新規治療薬の開発	進士 誠一	消化器外科	1,170,000	補助 委	文部科学省
心外膜植込み型プラットフォームを利用した心臓再生医療の確立	宮城 泰雄	医療安全管理部	130,000	補助 委	文部科学省
血管内腔側から徐々に吸収される階層構造を持つ生体吸収性動脈グラフトの開発	宮地 秀樹	心臓血管集中治療科	1,300,000	補助 委	文部科学省
機械学習によるCOVID-19のクラスターリングと個別化医療に向けた探索的研究	三宅 のどか	救命救急科	1,300,000	補助 委	文部科学省
Egr-1のハプロ不全による腎虚血再灌流障害に対する腎保護作用に関する研究	新井 正徳	救命救急科	1,040,000	補助 委	文部科学省
開放骨折への即時骨接合＋局所抗生剤高濃度持続投与法の感染率低下、遊離骨片温存作用	佐藤 陽介	救命救急科	260,000	補助 委	文部科学省
脳動脈瘤の臨床表現型に着目したRNF213の網羅的解析	村井 保夫	脳神経外科	1,430,000	補助 委	文部科学省
慢性子宮内膜炎におけるエピジェネティック変容とプロゲステロン不応機序の解明	桑原 慶充	女性診療科・産科	1,040,000	補助 委	文部科学省

新たな視点から調節卵巣刺激への反応性を予測する血中オステオポンチンの測定意義	中尾 仁彦	女性診療科・産科	1,300,000	補委	文部科学省
ヒトリンパ管内皮細胞に対する定圧刺激の影響と作用機序の解明	高田 弘弥	形成外科・再建外科・美容外科	910,000	補委	文部科学省
骨格筋他動的伸長刺激による筋力増強と栄養因子に関する分子生物学的検討	池田 聡	リハビリテーション科	1,300,000	補委	文部科学省
背景組織のプロテアーゼに着目したアミロイド沈着機序の解明	堂本 裕加子	病理診断科	1,170,000	補委	文部科学省
膵外腫瘍による低血糖にインスリン様成長因子はどう関与するのか？	福田 いずみ	糖尿病・内分泌代謝内科	1,430,000	補委	文部科学省
急性下肢虚血に対する新規血管内治療システム:革新的な遠隔塞栓予防システムの開発	上田 達夫	放射線科	1,820,000	補委	文部科学省
Rhoキナーゼによる薬剤性肺障害モデルの樹立と治療法の解明	柏田 建	呼吸器内科	1,560,000	補委	文部科学省
マクロファージの分子スイッチPI3K γ によるメラノマ微小環境の制御	佐伯 秀久	皮膚科	1,300,000	補委	文部科学省
急性骨髄性白血病におけるミトコンドリア活性化の臨床的意義と新規標的治療の開発	山口 博樹	血液内科	780,000	補委	文部科学省
DNMT3A変異陽性AMLに生じるG2/M期の遺伝子発現異常とその標的治療の開発	脇田 知志	血液内科	1,170,000	補委	文部科学省
全身性強皮症患者皮膚トランスクリプトームを反映した包括的病態モデルの構築	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	2,210,000	補委	文部科学省
scRNA-seq及びCITE-seq解析による強皮症特異的血管内皮前駆細胞の探索と治療応用	井関 ゆう子	リウマチ・膠原病内科	1,430,000	補委	文部科学省
細胞診および血液検体を用いた新規甲状腺濾胞癌特異的マーカーによる術前分子診断	軸藺 智雄	内分泌外科	2,470,000	補委	文部科学省
甲状腺低リスク乳頭癌のアクティブ・サーベイランスにおけるベスト・プラクティス探求	杉谷 巖	内分泌外科	1,300,000	補委	文部科学省
APOA2アイソフォームを用いた膵切除術後の新たな膵外分泌機能バイオマーカーの開発	松下 晃	消化器外科	1,560,000	補委	文部科学省
時計遺伝子に着目した疼痛睡眠関連機序の解析ー新たな疼痛治療戦略の確立に向けて	間瀬 大司	外科系集中治療科	1,820,000	補委	文部科学省
マイクロ波びまん性脳損傷に対する病態可視化と集学的治療の開発	横堀 将司	救命救急科	1,300,000	補委	文部科学省
外傷後臓器障害発生メカニズムの解明及び重度外傷の骨折治療タイミングの検討	平野 瞳子	救命救急科	1,560,000	補委	文部科学省
敗血症患者における急速進行性脳萎縮とPICSやICU-AWとの関連性に関する研究	中江 竜太	救命救急科	1,040,000	補委	文部科学省
空間的な遺伝子解析によるクロイド発生機序の解明と新規治療標的の導出	土佐 眞美子	形成外科・再建外科・美容外科	780,000	補委	文部科学省
疾患特異的iPS細胞を用いたクロイドの病態解明と治療法の確立	江浦 重義	形成外科・再建外科・美容外科	1,170,000	補委	文部科学省
救急外来における外国人患者の臨床的特徴に関する検討	須崎 真	救急診療科	260,000	補委	文部科学省
[18F]PM-PBB3を用いたタウイメージングによるパルス波ECTの認知機能への影響研究	坂寄 健	精神神経科	1,950,000	補委	文部科学省
老年期うつ病における神経変性疾患病理と治療反応性の病態解明研究	舘野 周	精神神経科	1,040,000	補委	文部科学省
脳卒中中のAI画像解析とポリジェニックモデルによる関連遺伝子座の相関性分析	青木 淳哉	脳神経内科	1,690,000	補委	文部科学省
糸球体腎炎モデルマウスに対する脂肪由来間葉系幹細胞(ADSC)を用いた細胞療法の開発	柳原 剛	小児科	1,300,000	補委	文部科学省
国際間比較によるバレット食道の病態解明と発癌リスク層別化マーカーの探求	後藤 修	内視鏡センター	2,080,000	補委	文部科学省
門脈肺高血圧症における肝星細胞由来BMP9の病態生理学的意義の解明	厚川 正則	消化器・肝臓内科	1,560,000	補委	文部科学省
BCL-2阻害剤抵抗性白血病における抗アポトーシス分子スイッチングの機序解明	永田 安伸	血液内科	1,950,000	補委	文部科学省

局所進行大腸癌での血中・尿中細胞外小胞中ctDNA/RNAによる遠隔微小転移診断法の開発	上原 圭	消化器外科	2,210,000	補委	文部科学省
microRNAを介した全身麻酔作用機序の検討	石川 真士	麻酔科・ペインクリニック	1,300,000	補委	文部科学省
重症肺血栓栓症におけるECMO管理の標準化	山本 剛	心臓血管集中治療科	910,000	補委	文部科学省
前立腺癌に対するホワイトボックス化AIによる革新的リスク管理の確立	近藤 幸尋	泌尿器科	1,820,000	補委	文部科学省
内在性ウイルス異常は妊娠高血圧症を誘発するかー胎盤エクソソームのオミクス解析	磯村 真理子	女性診療科・産科	1,560,000	補委	文部科学省
ハイスルーブットスクリーニングで同定された卵巣がん治療標的分子の核酸医薬品開発	豊島 将文	女性診療科・産科	1,690,000	補委	文部科学省
合成系ハイドロゲルによる新規白内障手術補助剤の開発	岡本 史樹	眼科	1,170,000	補委	文部科学省
ヒノキ精油の吸入による認知機能低下の予防効果に関する研究	李 卿	リハビリテーション科	1,170,000	補委	文部科学省
甲状腺機能障害に合併する頭蓋内血管狭窄の遺伝子変異と病態解析	亦野 文宏	脳神経外科	1,300,000	補委	文部科学省
グラニューライシンは原因不明不育症のマーカーとなりうるか？流産防止法確立に向けて	市川 智子	女性診療科・産科	910,000	補委	文部科学省
免疫学的アプローチによる早産におけるアラミンの機能解明	加藤 雅彦	女性診療科・産科	1,820,000	補委	文部科学省
異常瘢痕形成メカニズム解明と予防法・治療法開発 一日常生生活動作の解析をもとに一	土肥 輝之	形成外科・再建外科・美容外科	390,000	補委	文部科学省
創傷治癒と血管移植における血管新生過程と、ペリサイトの役割の解明	友利 裕二	整形外科・リウマチ外科	2,210,000	補委	文部科学省
特発性肺線維症合併肺癌に関連するCADM1、SPC25遺伝子変異の検討	福泉 彩	呼吸器内科	1,040,000	補委	文部科学省
慢性腎臓病進行抑制のセノモルフィクスの開発 -SASPを制御して腎臓病を克服する	荒谷 紗絵	腎臓内科	910,000	補委	文部科学省
キサンチンオキシダーゼ阻害薬による腸管虚血再灌流障害の制御と機序解明	瀧口 徹	救命救急科	1,560,000	補委	文部科学省
ロボット支援手術におけるデータ駆動型アプローチの導入と医療AIシステムの検証	赤塚 純	泌尿器科	1,430,000	補委	文部科学省
リキッドバイオプシーによる直腸癌の化学療法の効果と有害事象の予測マーカーの開発	横山 康行	消化器外科	1,300,000	補委	文部科学省
エピジェネティクス解析による心房細動とHFpEFに共通する遺伝的発症機序	藤本 雄飛	循環器内科	1,560,000	補委	文部科学省
腎周囲の毛羽立ちの正体を突き止める	柳 雅人	泌尿器科	780,000	補委	文部科学省
再灌流達成後の血圧制御が急性期脳梗塞体積変化と長期転帰に及ぼす影響の解明	坂本 悠記	脳神経内科	780,000	補委	文部科学省
急性骨髄性白血病に対するBCL2阻害剤と免疫療法による新規治療の開発	海渡 裕太	血液内科	1,820,000	補委	文部科学省
ダイバーシティ推進に向けた低被曝アブレーション治療の有効性と安全性の検討	萩原 かな子	循環器内科	780,000	補委	文部科学省
終末期医療から脳死下・心停止後臓器提供に関わる医療の評価に関する研究	横堀 将司	救命救急科	3,000,000	補委	厚生労働省
社会状況等を踏まえた、適切な妊産婦健康診査の検討に資する研究	鈴木 俊治	女性診療科・産科	200,000	補委	こども家庭庁
社会状況等を踏まえた、適切な妊産婦健康診査の検討に資する研究	川端 伊久乃	女性診療科・産科	200,000	補委	こども家庭庁
原発性高脂血症に関する調査研究	稲垣 恭子	糖尿病・内分泌代謝内科	200,000	補委	厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	200,000	補委	厚生労働省
血液凝固異常症等に関する研究	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	600,000	補委	厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	五野 貴久	リウマチ・膠原病内科	200,000	補委	厚生労働省
遺伝性骨髄不全症の登録システムの構築と診断基準・重症度分類・診断ガイドラインの確立に関する研究	山口 博樹	血液内科	500,000	補委	厚生労働省

アミロイドーシスに関する調査研究	堂本 裕加子	病理診断科	800,000	補委	厚生労働省
思春期・若年成人(AYA世代)患者におけるリウマチ医療体制に資する研究	檜崎 秀彦	小児科	200,000	補委	厚生労働省
地域医療構想を踏まえた救急医療体制の充実に関する研究	横堀 将司	救命救急科	200,000	補委	厚生労働省
臓器・組織移植医療における医療者の負担軽減、環境改善に資する研究	横堀 将司	救命救急科	250,000	補委	厚生労働省
救急応需率向上を目指した効率的な救急医療提供体制の構築に資する研究	横堀 将司	救命救急科	600,000	補委	厚生労働省
臓器提供に係る医療者教育に資する研究	横堀 将司	救命救急科	500,000	補委	厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	檜崎 秀彦	小児科	200,000	補委	厚生労働省
難治性聴覚障害に関する調査研究	松延 毅	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	300,000	補委	厚生労働省
急性期脳梗塞に対する血管内治療の適応時間拡大を目的とした多施設共同ランダム化比較研究	木村 和美	脳神経内科	4,160,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
先天的・後天的ゲノム情報と臨床情報を用いた関節リウマチの層別化基盤の構築	五野 貴久	リウマチ・膠原病内科	650,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
新規脳梗塞血栓溶解薬の国内導入を目指した研究開発	木村 和美	脳神経内科	208,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
ロメリジン塩酸塩によるCADASIL患者に対する脳虚血イベント再発抑制	木村 和美	脳神経内科	130,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
多施設連携プラットフォーム(MABB)を基盤にした各種認知症性疾患に対する日本発の包括的な診断・層別化バイオマーカーシステムの確立	舘野 周	精神神経科	6,110,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
びまん性内性性橋グリオーマ(DIPG)のレジストリ構築および緩和ケアの実態解明を目的とした多施設共同前方視的観察研究	前林 勝也	放射線治療科	130,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
髄芽腫、非定型奇形腫様ラブドイド腫瘍、上衣腫に対する標準治療開発を目的とした多施設共同研究	前林 勝也	放射線治療科	130,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
初発中枢神経原発胚細胞腫瘍に対する化学療法併用放射線治療の低侵襲化に関する研究開発	前林 勝也	放射線治療科	260,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
小児上衣腫に対する手術摘出度と分子学的マーカーを用いた治療層別化による集学的治療の安全性と有効性確立に向けた研究開発	前林 勝也	放射線治療科	260,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
ビロリ菌除菌後健康人を対象とした世界初エビゲノム発がんリスク診断の実用化	河越 哲郎	消化器・肝臓内科	550,030	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
ブレインアトラス創生による精神神経疾患のシングルセル・ゲノム創薬	曾原 康二	放射線科	1,300,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
全身型若年性特発性関節炎に対する診断率向上および治療効果、予後予測指標の確立を目指したエビデンス創出研究	檜崎 秀彦	小児科	650,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
関節リウマチ(RA)大規模データベースを用いた、移行期・AYA世代および妊娠期RA患者における疾患特性の異同を内包するライフステージの課題抽出とその解決に資する研究	檜崎 秀彦	小児科	1,300,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
脳血管のゲノム解析と血流解析の統合による脳血管障害発症に至る軌跡の解明と診療応用を目指す研究	下山 隆	脳神経内科	3,900,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
慢性腎臓病ハイリスク児スクリーニング手法の開発	柳原 剛	小児科	650,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構

「一過性骨髄異常増殖症(TAM)に対する早期死亡と白血病発症予防を目的とした標準化学療法確立を目指した第2相臨床試験」の開発	植田 高弘	小児科	130,000	○ 補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
「利活用を目的とした日本疾患バイオバンクの運営・管理」	山口 博樹	血液内科	12,650,000	○ 補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構

計111件

- (注)1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Suzuki Keishi , Kinoshita Daisuke , Niida Takayuki et al.	循環器内科	Computed Tomography Angiography Characteristics of Thin-Cap Fibroatheroma in Patients With Diabetes	J Am Heart Assoc. 2024/5/1 13(10): オンライン	Original Article
2	Noma Satsuki , Kato Katsuhito , Otsuka Toshiaki et al.	循環器内科	Sex Differences in Cardiovascular Disease- Related Hospitalization and Mortality in Japan - Analysis of Health Records From a Nationwide Claim-Based Database, the Japanese Registry of All Cardiac and Vascular Disease (JROAD)	Circ J. 2024/6/1 88(8):1332-1342	Original Article
3	Tara Shuhei , Yamamoto Takeshi, Kanaoka Koshiro et al.	循環器内科	Effects of Cardioprotective Drugs on 90-Day Mortality or Heart Transplantation in Patients With Fulminant Myocarditis	Circ Rep. 2024/7/1 6(8): 322-332	Original Article
4	Watanabe Yukihiro , Tara Shuhei , Nishino Takuya et al.	循環器内科	Impact of Red Blood Cell Transfusion on Subsequent Cardiovascular Events in Patients with Acute Heart Failure and Anemia	Int Heart J. 2024/7/1 65(2): 190-198	Original Article
5	Watanabe Yukihiro , Kubota Yoshiaki , Nishino Takuya et al.	循環器内科	Fractional excretion of urea nitrogen can identify true worsening renal function in patients with heart failure	ESC Heart Fail. 2024/8/1 11(4): 2043-2054	Original Article
6	Akutsu Koichi , Yoshino Hideaki , Tomoki Shimokawa et al.	循環器内科	Clinical Features of 544 Patients With Ruptured Aortic Aneurysm - A Report From the Tokyo Acute Aortic Super Network Database	Circ J. 2024/9/1 88(10), 1664-1671	Original Article
7	Nakata Jun , Ohbe Hiroyuki , Takiguchi Toru et al.	心臓血管集中治療 科	The association between introduction of the micro- axial flow pump Impella in hospitals and in-hospital mortality in patients treated with extracorporeal membrane oxygenation: interrupted time-series analyses	Ann Intensive Care. 2024/9/1 14(1): 151	Original Article
8	Yodogawa Kenji , Iwasaki Yu-Ki , Ito Nobuaki et al.	循環器内科	Efficacy and safety of atrial fibrillation ablation in patients with aged 80 years or older	Heart Vessels. 2024/9/1 40(3):245-250	Original Article
9	Aizawa Yoshiyasu, Komura Satoru , Kawakami Emiko et al.	循環器内科	Characteristics of successful termination of atrial fibrillation by atrial antitachycardia pacing in patients with cardiac implantable electronic devices	Heart Vessels. 2024/10/1 39(10): 884-890	Original Article

10	Watanabe Yukihiro , Yoshikawa Tsutomu, Arao Kenshiro et al.	循環器内科	Prevalence and Prognostic Impact of Diabetes in Takotsubo Syndrome: Insights from the Tokyo Cardiovascular Care Unit Network Registry	Am J Cardiol. 2024/11/1 237: 29-34	Original Article
11	Okajima Shuhei , Fujimoto Yui, Hachisuka Masato et al.	循環器内科	Optimizing Ablation Sites for Pulmonary Vein Isolation Reconnections: A Novel Approach Using an Emphasis Map Combined with the Peak Frequency and Local Activation Timing Map	Heart Rhythm. 2024/11/1 オンライン	Original Article
12	Akutsu Koichi , Ozaki Kensuke , Oshima Susumu et al.	循環器内科	Successful redo open thoracoabdominal aortic aneurysm surgery in a patient with vascular Ehlers- Danlos syndrome: A case report	J Cardiology Cases. 2024/5/1 30(1): 16-19	Case report
13	Matsuda Junya , Yamamoto Takeshi , Ishii Yosuke et al.	循環器内科	Eosinophilic granulomatosis with polyangiitis-induced eosinophilic endomyocarditis with marked endocardial thickening and 'sea urchin roe-like' endocardial thrombus	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2024/5/1 25(6):e166	Case report
14	Aizawa Yoshiyasu , Iwasaki Yu-Ki , Asai Kuniya et al.	循環器内科	Sinus Node Dysfunction due to Lithium Intoxication	Intern Med. 2024/11/1 63(21): 3003-3004	Case report
15	Aizawa Yoshiyasu, Kato S Tomoko , Iwasaki Yu-Ki et al.	循環器内科	Arrhythmic Complications during COVID-19 Infection	Intern Med. 2024/10/1 63(20): 2721-2722	Review
16	Murata Hiroshige, Iwasaki Yu-Ki, Shimizu Wataru et al.	循環器内科	Ventricular Tachycardia Ablation in Myocarditis as a Therapeutic Option	JACC Asia. 2024/12/1 4(12): 1010-1012	Review
17	Katano T, Suda S, Ohta T, et al.	脳神経内科	Improvement in Atrial Fibrillation Detection by Pulse Checking of Patients with Non-Cardioembolic Stroke in Rehabilitation Hospitals: The ESCORT Study	Journal of Nippon Medical School. 2024/6/1 第91巻 P527-533	Others
18	Hayashi T, Matsumoto N, Hatake S, et al.	脳神経内科	Nerve sonography to detect intraneural microvasculature in patients with peripheral neuropathy	Clinical Neurophysiology. 2024/10/1 第166巻 P244- 249	Original Article
19	Aoki J, Suzuki K, Sakamoto Y, et al.	脳神経内科	High plasma BNP concentration associates with clinical outcome after mechanical thrombectomy: Post hoc analysis of SKIP	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases. 2024/11/1 第33巻(オンラ イン)	Original Article
20	Nishiyama Y, Otsuka T, Kato K, et al.	脳神経内科	Intima-Media Thickness in the Carotid Bifurcation is Related to Silent Brain Infarction: A Cross- Sectional Study	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis. 2024/9/1 第31巻 P1293-1303	Original Article
21	Aoki J, Kimura K.	脳神経内科	The Body Mass Index as a Determinant of Acute Ischemic Location in Mild Non-cardioembolic Stroke Patients	Internal Medicine. 2024/10/1 第63巻 P2613- 2620	Original Article
22	Kimura R, Suzuki K, Saito T, et al.	脳神経内科	Hyperglycemia and Outcomes in Patients with Successful Reperfusion by Mechanical Thrombectomy	Internal Medicine. 2024/9/1 第63巻 P2385-2390	Original Article

23	Shimoda N, Sakai Y, Nishino T 他	腎臓内科	Changes in Treatment Conditions for Patients Receiving Hemodialysis at Nippon Medical School Hospital during the COVID-19 Pandemic	J Nippon Med Sch. 2024/5/1 91(2):172-179.	Original Article
24	Aratani S, Matsunobu T, Nakaishi M, 他	腎臓内科	Immune checkpoint inhibitor-related immunoglobulin A nephropathy in a patient with advanced head and neck cancer	J Nippon Med Sch. 2025/3/1 92-505. Online ahead of print.	Original Article
25	Kuwana M	リウマチ・膠原病内科	Recent advances in clinical and pathological significance of autoantibodies	Immunol Med. 2025/1/1 第48巻 P102-103	Review
26	Kuwana M, Tomiyama Y.	リウマチ・膠原病内科	Long-term safety and efficacy of fostamatinib in Japanese patients with primary immune thrombocytopenia	Int J Hematol. 2025/3/1 第121巻 P356-362	Original Article
27	Kuwana M, Wakasugi N, Hashida T, et al.	リウマチ・膠原病内科	Update on Tacrolimus in Patients With Interstitial Pneumonia Associated With Polymyositis or Dermatomyositis: 3-Year Postmarketing Surveillance Follow-Up in Japan	J Rheumatol. 2024/12/1 第51巻 P1262-1264	Original Article
28	Kuwana M, Avouac J, Hoffmann-Vold AM, et al.	リウマチ・膠原病内科	Development of a multivariable prediction model for progression of systemic sclerosis-associated interstitial lung disease	RMD Open . 2024/9/1 第10巻 e004240	Original Article
29	Watanabe S, Yomono K, Yamamoto S, et al.	リウマチ・膠原病内科	Lung ultrasound in the assessment of interstitial lung disease in patients with connective tissue disease: Performance in comparison with high-resolution computed tomography	Mod Rheumatol . 2024/12/1 第35巻 P79-87	Original Article
30	Mayo Ono, Mototsugu Nagao, Haruki Takeuchi, et al.	糖尿病・内分泌代謝内科	HLA investigation in ICI-induced T1D and isolated ACTH deficiency including meta-analysis	European Journal of Endocrinology. 2024/7/1 第191巻1号 P9-16	Original Article
31	Akimoto Naohiko, Goto Osamu, Ishikawa Yumiko, et al.	消化器・肝臓内科	Successful endoscopic full-thickness resection and hand suturing for rectal subepithelial tumors.	Endoscopy. 2024 56:E864-e5	Case report
32	Arai Taeang, Atsukawa Masanori, Tsubota Akihito, et al.	消化器・肝臓内科	Beneficial effect of oral semaglutide for type 2 diabetes mellitus in patients with metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease: A prospective, multicentre, observational study.	Diabetes Obes Metab. 2024 26:4958-65	Original Article
33	Atsukawa Masanori, Tsubota Akihito, Kondo Chisa, et al.	消化器・肝臓内科	ALBI score predicts morphological changes in esophageal varices following direct-acting antiviral-induced sustained virological response in patients with liver cirrhosis	J Gastroenterol. 2024 59:709-18	Original Article
34	Itokawa Norio, Atsukawa Maswanori, Tsubota Akihito, et al.	消化器・肝臓内科	Kinetics of the hepatitis B core-related antigen and treatment responses in chronic hepatitis B patients treated with tenofovir alafenamide	Hepatol Res. 2024 54:993-1003	Original Article

35	Kaburaki Shota, Okuda Ryo, Takemura Tamiko, et al.	呼吸器内科	Compatible with fibrotic hypersensitivity pneumonitis on high-resolution computed tomography: from the ATS/JRS/ALAT 2020 hypersensitivity pneumonitis guidelines.	J Thorac Dis. 2024/4/1 30;16(4):2353–2364.	Original Article
36	Kato Yasuhiro, Matsumoto Masaru, Takano Natsuki, et al.	呼吸器内科	Induction of resistance to neurotrophic tropomyosin-receptor kinase inhibitors by HMGS2 via a mevalonate pathway	Cancer Medicine. 2024/6/1 13(12):e7393.	Original Article
37	Tanaka Yosuke, Kaburaki Shota, Tanaka Toru, et al.	呼吸器内科	Improvement in idiopathic interstitial pneumonia by adding macitentan to patients unresponsive to nintedanib.	Respir Med Case Rep. 2024/6/1 4;50:102058.	Original Article
38	Onda Naomi, Nakamichi Shinji, Hirao Mariko, et al.	呼吸器内科	Afatinib plus PEM and CBDCA overcome osimertinib resistance in EGFR-mutated NSCLC with high thrombospondin-1 expression	Cancer Sci. 2024/8/1 ;115(8):2718–2728.	Original Article
39	Hisakane Kakeru, Atsumi Kenichiro, Seike Masahiro, et al.	呼吸器内科	Utility of atezolizumab plus bevacizumab, carboplatin, and paclitaxel combination for the treatment of advanced non-squamous non-small cell lung cancer patients with malignant pleural effusion	Transl Lung Cancer Res. 2024/9/1 30;13(9):2106–2115.	Original Article
40	Kaburagi Shota, Tanaka Toru, Kamio Koichiro, et al.	呼吸器内科	Transbronchial Lung Cryobiopsy for Interstitial Lung Disease: Early Experience, Learning Curve, and the Impact of Sedation on Complication Rates at a Single Centre in Japan.	BMC Pulm Med. 2024/10/1 29;24(1):540.	Original Article
41	Miyadera Keiki, Kakuto Sho, Sugai Mayu, et al.	呼吸器内科	Serum CYFRA 21–1 as a Prognostic Marker in Non-Small-Cell Lung Cancer Patients Treated with Immune Checkpoint Inhibitors.	Cancers (Basel). 2024/11/1 4;16(21):3712.	Original Article
42	Takeuchi Susumu, Yoshimura Akinobu, Sofuni Atsushi, et al.	呼吸器内科	A single-institution retrospective study of comprehensive genomic profiling tests based on C-CAT findings for advanced solid cancers.	Jpn J Clin Oncol. 2024/12/1 54(12) 1298–1305.	Original Article
43	Terashima Yuto, Matsumoto Masaru, Ozaki Saeko, et al.	呼吸器内科	IgA vasculitis induced by carboplatin + nab-paclitaxel + pembrolizumab in a patient with advanced lung squamous cell carcinoma: a case report.	Front Immunol. 2024/8/1 14;15:1370972.	Case report
44	Kaburagi Shota, Tanaka Toru, Murata Akari, et al.	呼吸器内科	The Histopathology of Abemaciclib-Induced Interstitial Lung Disease: A First Case Report With Transbronchial Lung Cryobiopsy.	Breast Cancer (Auckl). 2024/11/1 25;18:11782234241301314.	Case report
45	Kaburagi Shota, Okada Naoko, Tanaka Toru, et al.	呼吸器内科	Ixekizumab-induced Interstitial Lung Disease: A Case Report Confirmed by Transbronchial Lung Cryobiopsy” in its current form for publication in the Journal of Dermatological Treatment.	J Dermatolog Treat. 2024/12/1 35(1) 2424338.	Case report

46	Narishige Ryuichiro, Otaka Yasushi, Tateno Amane	精神神経科	Changing Characteristics of Young Severe Suicide Attempters Admitted to an Emergency Room in Tokyo, Japan	J Nippon Med Sch. 2024/10/1 第91巻 P488-494	Original Article
47	Narishige Ryuichiro, Otaka Yasushi, Tateno Amane	精神神経科	Characteristics of Japanese teenage suicide attempters: a retrospective study comparing suicide attempters with young adults	BMC Psychiatry. 2024/11/1 第24巻 774(オンライン)	Original Article
48	Narishige Ryuichiro, Otaka Yasushi, Tateno Amane	精神神経科	Sociological characteristics of alcohol-induced suicide attempters: A retrospective study	PCN Rep. 2025/3/1 第4巻 (オンライン)	Original Article
49	Sakayori T, Ikeda Y, Arakawa R, et al.	精神神経科	A randomized placebo controlled trial demonstrates the effect of dl-methylephedrine on brain functions is weaker than that of pseudoephedrine.	Sci Rep . 2024/9/1 2024 Sep 5;14(1):20793.	Original Article
50	Sakayori T, Wada K, Takebayashi M, et al.	精神神経科	Multicenter Observational Study of Electroconvulsive Therapy in Japan	J ECT. 2025/3/1 2025 Mar 1;41(1):31-36.	Original Article
51	Hoashi T, Ishikawa M, Uehara J, et al.	皮膚科	Outlines of Japanese clinical guidelines for basal cell carcinoma	J Dermatol. 2024 51: e90-e105	Original Article
52	Saeki H, Ohya Y, Baba N, Imamura T, et al.	皮膚科	An interim report of a phase 3, long-term, open-label study to evaluate efficacy and safety of difamilast ointment in Japanese infants with atopic dermatitis	Dermatol Ther. 2024 14: 2443-2455	Original Article
53	Saeki H, Kanda N	皮膚科	Treatment of chronic hand eczema with topical anti-inflammatory drugs other than topical corticosteroids	Med. 2024 5: 1203-1205	Original Article
54	Saeki H, Ohya Y, Arakawa H, et al.	皮膚科	English version of clinical practice guidelines for the management of atopic dermatitis	J Dermatol. 2024 52: e70-e142	Original Article
55	Tomihari Masahiro	麻酔科ペインクリニック	Propranolol and landiolol inhibit cell proliferation enhanced by noradrenaline in human lung adenocarcinoma cells	Biomed Res. 2024/6/1 第45巻 P253-259	Original Article
56	Iwasaki Masae	麻酔科ペインクリニック	Ropivacaine Administration Suppressed A549 Lung Adenocarcinoma Cell Proliferation and Migration via ACE2 Upregulation and Inhibition of the Wnt1 Pathway.	Int J Mol Sci. 2024/8/1 第25巻 P9334	Original Article
57	Iwasaki M, Yamamoto M, Tomihari M, et al	緩和ケア科	Ropivacaine Administration Suppressed A549 Lung Adenocarcinoma Cell Proliferation and Migration via ACE2 Upregulation and Inhibition of the Wnt1 Pathway	Int J Mol Sci. 2024/8/28 第17巻 p9334	Original Article
58	Tastuo Ueda	放射線科	Kinking of the Aortic Body Contralateral Leg due to Twisting Force in an Alto Endograft	Journal of Vascular and Interventional Radiology. 2024/7/1 第35巻 P1084-1086	Case report
59	Tastuo Ueda	放射線科	Endovascular Treatment for Acute Portal Vein Thrombosis	Interventional Radiology. 2025/3/1 e2023-0027	Review

60	Tastuo Ueda	放射線科	Preemptive Embolization of Abdominal Aortic Aneurysm Sac Side Branch Arteries Promotes Early Sac Shrinkage after Endovascular Aneurysm Repair 1	Annals of Vascular Surgery. 2024/12/1 第109巻 P9-19	Original Article
61	Akihisa Matsuda Takeshi Yamada Goro Takahashi 他	消化器外科	Significance of Adjuvant Chemotherapy for Obstructive Colorectal Cancer After Stent Placement A Multicenter Retrospective Study	Anticancer Res. 2024/6/1 第44巻6号 P2737-2745	Original Article
62	Takahiro Haruna Mitsuhiro Kudo Kousuke Ishino 他	消化器外科	Molecular biological role of epithelial splicing regulatory protein 1 in intrahepatic cholangiocarcinoma.	Hepatol Res. 2024/6/1	Original Article
63	Tetsuya Shimizu Hiroshi Yoshida Nobuhiko Taniai 他	消化器外科	Splenectomy unveils thrombocytosis in underlying myeloproliferative neoplasms with extrahepatic portal vein obstruction	Intractable & Rare Diseases Research. 2024/8/1 第13巻3号 P165-171	Case report
64	Tetsuya Shimizu Yoshiharu Nakamura Akira Matsushita 他	消化器外科	Choledochal Cyst Diagnosed during Pregnancy and Treated by Postpartum Laparoscopic Choledochal Cyst Excision Case Report	J Nippon Med Sch. 2024/8/1 第91巻4号 P417-421	Case report
65	Takuma Iwai Seichi Shinji Takeshi Yamada 他	消化器外科	Economic and ecological laparoscopic-assisted colectomy using reusable energy devices: A technical note with video vignette.	Asian J Surg. 2024/8/1 第S1015巻24号 P01813-X	Letter
66	Shintaro Kanaka Takeshi Yamada Akihisa Matsuda 他	消化器外科	Short-term and three-year long-term outcomes of laparoscopic surgery versus open surgery for obstructive colorectal cancer following self-expandable metallic stent placement: a meta-analysis.	Review Surg Endosc. 2024/8/1 第38巻10号 P5514-5527	Review
67	Akihisa Matsuda Sho Kuriyama Fumihiko Ando 他	消化器外科	Machine Learning Predicts the Need for Surgical Intervention in Adhesive Small Bowel Obstruction.	J Anus Rectum Colon. 2024/10/1 第8巻4号 P323-330	Original Article
68	Takuma Iwai Hiroshi Yoshida	消化器外科	Management of Transanal Recto-Anal Foreign Body in a School-Aged Child: A Report of a Rare Case	Cureus. 2024/11/1 第16巻11号 Pe73120	Case report
69	Takuma Iwai Hiroshi Makino Hiroshi Yoshida 他	消化器外科	Ocular Metastatic Tumor in a Patient With Hepatocellular Carcinoma	Cureus. 2024/11/1 第16巻11号	Case report
70	Tetsuya Shimizu Masato Yoshioka Akira Matsushita 他	消化器外科	Esophagogastric Varix Caused by Extrahepatic Portal Vein Obstruction with Essential Thrombocythemia: A Case Report	J Nippon Med Sch. 2024/12/1 第91巻6号 P541-547	Case report
71	Seiichi Shinji Yutaro Ogawa Takeshi Yamada 他	消化器外科	Morphological and functional analysis of colorectal cancer cell lines in 2D and 3D culture models	Sci Rep. 2025/1/1 第15巻1号 P3047	Original Article
72	Takuma Iwai Seiichi Shinji Takeshi Yamada 他	消化器外科	Advances in Surgery and Sustainability: The Use of AI Systems and Reusable Devices in Laparoscopic Colorectal Surgery	Cancers (Basel). 2025/2/1 第17巻5号 P761	Review

73	Akihisa Matsuda Takeshi Yamada Kay Uehara 他	消化器外科	Comparison between olanexidine gluconate and conventional antiseptics for surgical site infection in gastroenterological surgery A meta- analysis	Ann Gastroenterol Surg. 2025/3/1 P1-11	Review
74	Marie Saitou, Haruki Akasu, Tomoo Jikuzono et al.	内分泌外科	Postoperative Bleeding Risk in Thyroid Surgery: Differences between Conventional and Endoscopic Video-Assisted Neck Surgery Methods	J Nippon Med Sch. 2024/10/25 91 (5) 432-438	Original Article
75	Sugitani I, Nagaoka R, Saito M et al.	内分泌外科	Long-term outcomes of active surveillance for low- risk papillary thyroid carcinoma: Progression patterns and tumor calcification	World J Surg. 2025/1/1 49 (1) 159-169	Original Article
76	Kenji Suzuki Shun-Ichiro Sakamoto Atsushi Hiromoto	心臓血管外科	Life-Threatening Conditions and Preoperative Complications Associated with Cardiac Neoplasm Do Not Affect Surgical Outcomes or Mortality	J Clin Med. 2024/9/18 13(18):5532.	Original Article
77	Atsushi Hiromoto Shun-ichiro Sakamoto Kenji Suzuki	心臓血管外科	Quantitative Evaluation of Peripheral Nerve Injury in Endovenous Laser Ablation with or without Microphlebectomy: Prospective Cohort Study of 25 Cases	Annals of Vascular Diseases. 2024/10/15 17(4):383-388.	Original Article
78	Takumi Sonokawa, Yukio Fujiwara, Cheng Pan et al.	呼吸器外科	Enhanced systemic antitumor efficacy of PD- 1/PD-L1 blockade with immunological response induced by photodynamic therapy	Thorac Cancer . 2024年 6月 第15巻 P1429-1436	Original Article
79	Takumi Sonokawa, Mitsunobu Ino, Satoshi Kera et al.	呼吸器外科	Long-term outcomes of PDT for centrally-located early lung cancers with tumor diameters > 2.0 cm	Photodiagnosis Photodyn Ther . 2024年 6月 第47巻 104200	Original Article
80	Murai Y	脳神経外科	Various Systemic Vascular Diseases Involving RNF213 Gene Mutations: Review.	J Nippon Med Sch. 2024年 91(2):140-145.	Review
81	Matano F	脳神経外科	Experience Using Gentian Violet-Free Dyes for Tissue Visualization.	J Neurol Surg A Cent Eur Neurosurg. 2024 Sep 85(5):526-530.	Original Article
82	Nounaka Y	脳神経外科	Pathological Findings of Donor Vessels in Bypass Surgery.	J Clin Med. 2024 Apr 6;13(7):2125.	Original Article
83	Nounaka Y	脳神経外科	The Second-Set Surgeries for Multiple Unruptured Aneurysms Do Not Increase Perioperative Complications.	Neurosurg Pract. 2024 Jul 19;5(3)	Original Article
84	Umeoka K	脳神経外科	Trigeminal Neuralgia due to Venous Compression Successfully Transposed by Suprameatal Tubercle Drilling.	J Nippon Med Sch. 2024 91(6):586-589.	Case report

85	Nounaka Y	脳神経外科	Revascularization with superficial temporal artery-middle cerebral artery anastomosis in spontaneous intracranial internal carotid artery dissection: illustrative case.	J Neurosurg Case Lessons. 2024 Nov 18;8(21)	Case report
86	Miwa K	脳神経外科	A Patient with Tarsal Tunnel Syndrome Associated with the Flexor Digitorum Accessorius Longus Muscle.	NMC Case Rep J. 2024 May 17;11:125-129.	Case report
87	Dan H	脳神経外科	Two Acute Stroke Patients Whose Lower Back and Lower Limb Pain Hampered Their Rehabilitation: The Effectiveness of Peripheral Nerve Blocks.	Cureus. 2024 Aug 29;16(8)	Case report
88	Ayaho Yoshino Ryosuke Murakami Kei Hosoya et al	耳鼻咽喉科頭頸部外科	A Nationwide survey of safety protocols and chemosensory assessments by Japanese clinicians pre- and post-COVID-19 pandemic	Auris Nasus Larynx . 2024/8/1 51(4):640-646.	Original Article
89	Naoko Sakuma Shinya Nishio Shinichi Goto et al	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Detailed Clinical Features of PTPRQ-Associated Hearing Loss Identified in a Large Japanese Hearing Loss Cohort	Genes. 2024/4/1 15(4):489	Original Article
90	Koji Sakamoto Hiroyuki Ozawa Yoichiro Sato et al	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Cutoff value of thyroglobulin in needle aspirates for screening neck masses of thyroid carcinoma	Endocrine related Cancer. 2024/12/1 31(12):e240067. オンライン	Original Article
91	Hayato Takeda, Jun Akatsuka, Tomonari Kiriya他	泌尿器	Clinically Significant Prostate Cancer Prediction Using Multimodal Deep Learning with Prostate-Specific Antigen Restriction	Current oncology. 2024/11/1 第31巻11号 P7180-7189	Original Article
92	Jun Akatsuka, Go Kimura, Mami Takadate他	泌尿器	The Current Status of Comprehensive Genomic Profiling in the Management of Metastatic Castration-Resistant Prostate Cancer: A Study from a Cooperative Hospital for Cancer Genomic Medicine in Japan	Journal of Nippon Medical School. 2024/10/1 第91巻5号P472-479	Original Article
93	Go Kimura, Yasuhisa Fujii, Kazunori Honda他	泌尿器	Cross-sectional study of therapy-related expectations/concerns of patients with metastatic renal cell carcinoma and physicians in Japan.	Cancer Med. 2024/6/1 オンライン	Original Article
94	Go Kimura, Yasuhisa Fujii, Takahiro Osawa他	泌尿器	Financial Toxicity in Japanese Patients with Metastatic Renal Cell Carcinoma: A Cross-sectional Study.	Cancers. 2024/5/1 第16巻10号P1904	Original Article
95	Jun Akatsuka, Yoshihiko Ogata, Yuki Endo他	泌尿器	Index tumor location affected early biochemical recurrence after radical prostatectomy in patients with negative surgical margin: a retrospective study.	BMC urology. 2024/5/1 第24巻1号P108	Original Article

96	Masato Yanagi, Tomonari Kiriyaama, Jun Akatsuka他	泌尿器	Role of collateral vessels on contrast-enhanced computed tomography in predicting metastatic potential for small renal cell carcinoma.	Discover oncology . 2024/10/1 第15巻1号P253	Original Article
97	Masato Yanagi, Tomonari Kiriyaama, Jun Akatsuka他	泌尿器	Preoperative analysis of factors associated with prolonged pneumoretroperitoneum time during retroperitoneal laparoscopic nephroureterectomy for upper tract urothelial carcinoma.	BMC urology. 2024/7/1 第24巻1号P155	Original Article
98	Masato Yanagi, Tsutomu Hamasaki, Tetsuro Sekine他	泌尿器	Preoperative Risk Factor Analysis of Prolonged Retroperitoneoscopic Radical Nephrectomy.	Journal of Nippon Medical School. 2024/8/1 第91巻4号P377-382	Original Article
99	Masato Yanagi, Tsutomu Hamasaki, Akifumi Katsu他	泌尿器	Usefulness of hand-assisted retroperitoneal laparoscopic radical nephrectomy for extreme obese patients –a case report–	The Journal of Medical Investigation. 2024/5/1 第71巻1.3号P187-190	Case report
100	Hikaru Mikami Syunya Noguchi Jun Akatsuka他	泌尿器	snRNAs from Radical Prostatectomy Specimens Have the Potential to Serve as Prognostic Factors for Clinical Recurrence after Biochemical Recurrence in Patients with High-Risk Prostate Cancer.	Cancers. 2024/5/1 第16巻9号P1757	Original Article
101	Hiroya Hasegawa, Jun Akatsuka, Shogo Imai他	泌尿器	A Case of Renal Abscess Mimicking Metastatic Lesion in a Patient with Lung Carcinosarcoma.	Journal of Nippon Medical School. 2024/12/1 第91巻6号P590-594	Case report
102	Yanagi, Masato ; Kono, Hiroyoshi ; Muramatsu, Hiroyuki 他	泌尿器	Difficulty in Removing a Ureteral Stent post Childbirth due to Encrustation: A Case Report.	The Kobe journal of medical sciences. 2024/7/1 第70巻3号P77-80	Case report
103	Masato Yanagi, Morio Motoda, Akifumi Katsu他	泌尿器	Preoperative oral treatment with cyclooxygenase-2 inhibitor for cystitis glandularis.	IJU case reports. 2024/4/1 第7巻4号P297-300	Case report
104	Tomori Yuji, Koder Norie, Nanno Mitsuhiko,et.al	整形外科・リウマチ外科	Dorsal Radiocarpal Dislocation with Radial Styloid Fracture Treated with Arthroscopy-Assisted Reduction and Internal Fixation: A Report of Two Cases.	J Nippon Med Sch. 2024/4/1 第91巻2号P241-248	Case report
105	Yamaguchi Yushi, Ono Koichiro, Fukuhara Daisuke,et.al	整形外科・リウマチ外科	Enhancing Transforaminal Full Endoscopic Discectomy: Efficacy of the Hand Down Outside-In (HDOI) Technique.	J Pers Med. 2024/6/1 第14巻7号 P679	Original Article
106	Oshima Yasushi, Watanabe Nobuyoshi, Takeoka Toru,et.al	整形外科・リウマチ外科	Preoperative Abnormal Posture Improves After Total Knee Arthroplasty: Knee-Hip-Spine Syndrome.	J Arthroplasty. 2025/2/1 40巻2号 P416-422	Case report
107	Nakae R, Sekine T, Tagami T, et al	救命救急科	Rapidly progressive brain atrophy in ventilated patients: a retrospective descriptive study	Sci Rep. 2024/11/29 14(1):29729 (オンライン)	Original Article

108	Nakata J, Ohbe H, Takiguchi T, et al	救命救急科	The association between introduction of the micro-axial flow pump Impella in hospitals and in-hospital mortality in patients treated with extracorporeal membrane oxygenation: interrupted time-series analyses	Ann Intensive Care. 2024/9/28 14(1):151 (オンライン)	Original Article
109	Onda H, Kanaya T, Igarashi Y, et al	救命救急科	Changes in Cerebrospinal Fluid Interleukin-6 Levels after Surgical Treatment of Subarachnoid Hemorrhage	J Nippon Med Sch. 2024 91(4):402-409	Original Article
110	Shigeta K, Kim S, Nakae R, et al	救命救急科	Effectiveness of vacuum-assisted wound closure and mesh-mediated fascial traction in open abdomen management	Surg Today. 2025/3/1 55(3):335-342	Original Article
111	Takiguchi T, Nakajima M, Ohbe H, et al	救命救急科	Association between Postoperative Adjuvant Vasodilator Therapy and In-Hospital Mortality for Non-Occlusive Mesenteric Ischemia: A Nationwide Observational Study	J Nippon Med Sch. 2024 91(3):316-321	Original Article
112	Okada I, Hagiwara M, Yoneyama H, et al	救命救急科	Recanalization of port-superior mesenteric vein thrombosis with long-term anticoagulant therapy after failed early anticoagulant therapy	Surg Case Rep. 2024/6/20 10(1):154 (オンライン)	Case report
113	Okada I, Hifumi T, Yoneyama H, et al	救命救急科	Survival benefits of interventional radiology and surgical teams collaboration during primary trauma surveys: a single-centre retrospective cohort study	BMC Emerg Med. 2024/4/16 24(1):65 (オンライン)	Original Article
114	Igarashi Y, Nakahara K, Norii T, et al	救命救急科	Performance of a Large Language Model on Japanese Emergency Medicine Board Certification Examinations	J Nippon Med Sch. 2024/5/21 91(2):155-161	Original Article
115	Takiguchi T, Tominaga N, Hamaguchi T, et al	救命救急科	Etiology-Based Prognosis of Extracorporeal CPR Recipients After Out-of-Hospital Cardiac Arrest: A Retrospective Multicenter Cohort Study	Chest. 2024/4/1 165(4):858-869	Original Article
116	Watanabe Y, Nakata J, Matsushita H,	心臓血管集中治療科	Mixed shock after alcohol septal ablation for hypertrophic obstructive cardiomyopathy: Impella in crisis management	J Cardiol Cases. 2025.2.17 31(5):134-138	Case report
117	Tara S, Yamamoto T, Kanaoka K	心臓血管集中治療科	Effects of Cardioprotective Drugs on 90-Day Mortality or Heart Transplantation in Patients With Fulminant Myocarditis.	Circ Rep. 2024.7.5 6(8):322-332	Original Article
118	Terasaki Yasuhiro Nishioka Y Kajimoto Y他	病理部	Diffuse pulmonary ossification and its association with cicatricial organising pneumonia in idiopathic and secondary forms.	Sci Rep. 2025年 《1～3月なので2024年度 ※正確な月は不明》 15:12442-12442	Original Article

119	Yuki Genda, Hiroshi Mase, Atsuhiro Sakamoto	外科系集中治療科	Importance of Early Diagnosis and Treatment of Perioperative Catatonia: A Case Report	J Nippon Med Sch. 2024/6/1 第91巻3号 P347-350	Case report	計119件
-----	---	----------	--	--	-------------	-------

(注)1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること

(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される
主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 研究の種類、審査委員会と窓口、研究内容と審査機関、臨床研究実施の流れ、研究計画書作成 ならびに申請時の注意事項、研究計画の事前登録、学外での研究計画書の審査依頼について、 相談窓口	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に
「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員 会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反マネジメントの対象、委員会の構成、審議事項 利益相反マネジメントのプロセス、臨床研究に関する取り扱い	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員 会の開催状況	年40回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容 ヘルシンキ宣言の改訂とその影響	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

1 研修の内容

当院の専門研修プログラムは、2年間の必修初期臨床研修の終了後、さらに臨床医学に関する知識と技能を向上させ、より専門的な臨床研修を行うためのものである。平成30年度より、新たな専門医制度が始まり、基本領域学会及び日本専門医機構の審査・認定を受けた専門研修プログラムに基づき、各領域で専門医取得や大学院進学等につながる多彩な研修コースを提示している。日本医科大学付属病院、武蔵小杉病院、多摩永山病院、千葉北総病院の四つの付属病院において、それぞれの特色を生かした診療体制の中でローテーションが可能であり、高度な医療、先進医療の研修を可能にしている。愛と研究心を有し、質の高い医療を求める国民のニーズに応えうる人材の育成を目指す。

(注)上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	241.1人
-------------	--------

(注)前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
高木 元	内科	部長	32 年	院内標榜:総合診療科
浅井 邦也	循環器内科	部長	36 年	
須田 智	脳神経内科	部長	26 年	
酒井 行直	腎臓内科	部長	33 年	
桑名 正隆	リウマチ科	部長	37 年	
脇田 知志	血液内科	部長	22 年	
厚川 正則	消化器・肝臓内科	部長	27 年	
岩部 真人	内分泌代謝内科	部長	22 年	
清家 正博	呼吸器内科	部長	33 年	
高木 元	老年内科	部長	32 年	
舘野 周	精神科	部長	31 年	
植田 高弘	小児科	部長	36 年	
佐伯 秀久	皮膚科	部長	34 年	
石川 真士	麻酔科	部長	18 年	
林 宏光	放射線科	部長	38 年	
吉田 寛	消化器外科	部長	39 年	
武井 寛幸	乳腺外科	部長	39 年	
杉谷 巖	内分泌外科	部長	36 年	
石井 庸介	心臓血管外科	部長	32 年	
臼田 実男	呼吸器外科	部長	31 年	
村井 保夫	脳神経外科	部長	32 年	
岡本 史樹	眼科	部長	31 年	
後藤 穰	耳鼻いんこう科	部長	34 年	
鈴木 俊治	産婦人科	部長	37 年	
近藤 幸尋	泌尿器科	部長	40 年	
平尾 真	整形外科	部長	27 年	

小川 令	形成外科	部長	26	年	
横堀 将司	救急科	部長	26	年	
高木 元	漢方内科	部長	32	年	
大橋 隆治	病理診断科	部長	33	年	
久野 彰子	歯科	部長	32	年	
青柳 陽一郎	リハビリテーション科	部長	32	年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況(任意)
・研修の主な内容:医療機器安全管理研修(除細動器) ・研修の期間・実施回数:2024年12月2日～2024年12月31日 Webにて開催 ・研修の参加人数:看護職(看護師・助産師)1160名、事務職 222名、技術職(薬剤師、技師(士)等)372名、技能職 35名 ・研修の主な内容:看護職員向け 1)人工呼吸器管理とウイニングプロトコル・2)急性期・周術期の鎮痛と鎮静管理・3)SEW スコアを用いた急変予測と対応・4)急性期脳卒中患者の病態生理と治療戦略・5)うつ状態の患者の理解とケアの実際・6)MDRPU の予防とケア・7)周術期管理・8)耳鼻科疾患と嚥下機能の評価・9)アブレーション治療の適応と管理・10)大動脈解離の対応・11)整形外科の術後管理・12)不整脈のデバイス治療と管理・13)誤嚥性肺炎の予防と口腔ケア・14)災害発生時の対応(CSCATTT)・15)消化器疾患の検査と治療・16)がん放射線療法に必要な基本知識等・17)重症患者と酸素療法・18)胸腔ドレナージの管理・19)気管吸引と気道管理・20)呼吸理学療法とホジショニング・21)口腔ケア OHAT を用いた口腔内評価・22)最新のガイドラインにもとづく口腔ケア・23)脳卒中患者の嚥下障害とその対策・24)不妊治療・AYA 世代の妊孕性温存治療・25)脊椎手術と管理・26)肝臓・胆道・膵臓疾患の内科的治療・27)心肺蘇生指導者育成・28)慢性腎不全の病態と透析治療・29)エンゼルケアの目的と死後のご遺体の変化・30)がん患者のアピアランスケア・31)リンパ浮腫に関する基本的な知識・32)ゲノム医療の基本的知識・33)乳房切除を受ける患者の看護・34)希死念慮のあるがん患者へのケア・35)がん放射線療法の看護・36)がん性疼痛の看護・37)リンパ浮腫の看護・38)がん薬物療法の看護・39)がん免疫療法の看護・40)消化器疾患と嚥下障害・41)急性期患者と嚥下障害・42)小児の初期評価(PAT)・43)感染経路別予防策・44)薬剤耐性菌対策・45)糖尿病患者のスティグマとアドボカシー活動 ・研修の期間・実施回数:2024年4月1日～2025年3月31日・100回 ・研修の参加人数:院内1254名
② 業務の管理に関する研修の実施状況(任意)
・研修の主な内容:医療機器安全管理研修(医療機器の安全な取扱い) ・研修の期間・実施回数:2024年12月16日～2025年1月16日 Webにて開催 ・研修の参加人数:看護職(看護師・助産師)1154名、事務職 223名、技術職(薬剤師、技師(士)等)371名、技能職 35名 ・研修の主な内容:医薬品・医療機器に係る安全使用のための研修講演会 ・研修の期間・実施回数:2024/2/4～3/29(SAKURA受講)、年1回 ・研修の参加人数:全職員対象 令和6年度2,390名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 1)人工呼吸器管理とウイニングプロトコル・2)急性期・周術期の鎮痛と鎮静管理・3)SEW スコアを用いた急変予測と対応・4)急性期脳卒中患者の病態生理と治療戦略・5)うつ状態の患者の理解とケアの実際・6)MDRPU の予防とケア・8)耳鼻科疾患と嚥下機能の評価・9)アブレーション治療の適応と管理・10)大動脈解離の対応・11)整形外科の術後管理・12)不整脈のデバイス治療と管理・13)誤嚥性肺炎の予防と口腔ケア・14)災害発生時の対応(CSCATTT)・15)消化器疾患の検査と治療・16)がん放射線療法に必要な基

本知識等・17)重症患者と酸素療法・18)胸腔ドレナージの管理・19)気管吸引と気道管理・20)呼吸理学療法とホジショニング・21)口腔ケア OHAT を用いた口腔内評価・22)最新のガイドラインにもとづく口腔ケア・23)脳卒中患者の嚥下障害とその対策・24)不妊治療・AYA 世代の妊孕性温存治療・25)脊椎手術と管理・26)肝臓・胆道・膵臓疾患の内科的治療・27)エンゼルケアの目的と死後のご遺体の変化・28)がん患者のアピアランスケア・29)リンパ浮腫に関する基本的な知識・30)ゲノム医療の基本的知識・31)小児の初期評価(PAT)・32)乳房切除を受ける患者の看護・33)希死念慮のあるがん患者へのケア・34)感染経路別予防策・35)薬剤耐性菌対策・36)糖尿病患者のスティグマとアドボカシー活動

- ・研修の期間・実施回数:2024年4月1日～2025年3月31日・95回
- ・研修の参加人数:院外参加者延 97名

(注)1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注)2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	院長 山口 博樹
管理担当者氏名	各部署長

		保 管 場 所		管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	庶務課	電子保存管理 病院外持出の運用は無い
		各科診療日誌	電子カルテ内サーバー	
		処方せん	電子カルテ内サーバー	
		手術記録	電子カルテ内サーバー	
		看護記録	電子カルテ内サーバー	
		検査所見記録	電子カルテ内サーバー	
		エックス線写真	電子カルテ内サーバー	
		紹介状	電子カルテ内サーバー	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	電子カルテ内サーバー	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課	ファイル、PCによる 保存管理
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	庶務課	
		高度の医療の研修の実績	各部署	
		閲覧実績	庶務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	電子カルテ内サーバー	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	庶務課、薬剤部	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	ファイル、PCによる 保存管理
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御室	ファイル、PCによる保存管理
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御室	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	ME部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME部	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	ファイル、PCによる保存管理
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	
		医療安全管理部門の設置状況	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	
		監査委員会の設置状況	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	
		職員研修の実施状況	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	
		管理者が有する権限に関する状況	
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
閲覧責任者氏名	院長 山口 博樹
閲覧担当者氏名	庶務課 課長 市川 裕紀子
閲覧の求めに応じる場所	・閲覧室
閲覧の手続の概要 閲覧についての書類を受け取り後、対応	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数		延	件
閲 覧 者 別	医師	延	件
	歯科医師	延	件
	国	延	2件
	地方公共団体	延	1件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11 第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容: 1.医療安全管理に関する基本的考え方 2.医療に係る安全管理の組織に関する基本的事項 3.医療安全管理のための職員研修に関する基本的事項 4.事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5.医療事故発生時の対応に関する基本方針 6.当院と患者との間の情報の共有に関する基本方針 7.患者からの相談への対応に関する基本方針 8.高難度新規医療技術等を用いた医療の提供 9.未承認新規医薬品等を用いた医療の提供 10.その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無 (有・無) ・ 開催状況: 年12回 ・ 活動の主な内容: 1.医療の安全管理の総括に関すること 2.医療安全管理指針及び医療安全マニュアルの策定、変更に関すること 3.重大な医療事故等に関する原因究明のための調査及び分析に関すること 4.前号の分析結果を活用した医療事故等防止法策の立案及び実施ならびに従業者への周知に関すること 5.医療事故等防止方策の実施状況の調査及び見直しに関すること 6.死亡退院事例報告の実施状況の確認及び確認結果の院長への報告ならびに従業者への研修及び指導に関すること 7.医療法(昭和23年法律第205号)第6条の11に規定する医療事故調査及び医療事故調査等支援団体に関すること 8.高難度新規医療技術等を用いた医療の提供に関すること 9.未承認新規医薬品等を用いた医療の提供に関すること 10.その他医療安全管理に関すること	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年2回
・ 研修の内容(すべて): 1.令和6年度 第1回 医療安全管理研修講演会(eラーニング形式) 開催期間:令和6年10月1日～令和6年11月30日 演題:ダブルチェック再考(1/2) 講師:京都大学医学部附属病院 医療安全管理部長 松村由美 先生 2.令和6年度 第2回 医療安全管理研修講演会(eラーニング形式) 開催期間:令和6年10月1日～令和6年11月30日 演題:ダブルチェック再考(2/2) 講師:京都大学医学部附属病院 医療安全管理部長 松村由美 先生	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容: 1.医療安全管理集中管理システム(セーフマスター)での管理 2.医療安全管理に関する規定(指針、ガイドライン、マニュアル)の改正 3.医療安全管理の手引きの改正、配布 4.リスクマネージャー委員会(月1回)における改善方策周知 5.院内リスクアナウンス(安全情報等)の周知確認登録 (電子カルテシステム画面を利用したポータルサイト、院内 FAX 等)	

(注)前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11 第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容： I. 院内感染対策に関する基本的考え方 II. 感染対策に係る組織に関する基本的事項 III. 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針 IV. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 V. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 VI. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 VII. その他医療機関内における院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
・ 活動の主な内容： * 委員会は、原則として月1回の開催とする * 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する 1) 病院感染予防の方策及び監視に関すること 2) 病院感染対策ガイドライン、感染防止マニュアルの策定及びその実施に関すること 3) 病院感染についての教育活動に関すること 4) 病院感染の調査に関すること 5) その他、病院感染に関して委員会が必要と認めること	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年4回
・ 研修の内容(すべて)： 第1回 抗菌薬の適正な使用について 配信期間と方法令和5年10月24日～令和5年11月22日(eラーニングシステム掲載による開催) 第2回 血液体液曝露の予防と対策 第3回 すべての人に清潔なケアを あなたの手が患者さんや仲間を守る～手指衛生向上に向け私たちが出来ること～ 第4回 付属病院における抗菌薬の使用状況について	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) * 院内で感染症発生時には、直ちに、発生部署で感染症発生連絡書を作成、感染対策部門に提出する。ICTは報告をもとに、現場感染対策を実施する。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： * 手指衛生状況調査(年2回) * 環境整備評価目的の環境調査(随時) * 医療関連感染サーベイランスへの参加(J-SHIPE、JANIS、私立医科大学病院感染対策協議会・推進会議)	

(注)前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11 第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	㊟・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年1回
研修の主な内容: 最近の他施設での医薬品関連の事故、事件の紹介。 当院で発生した薬剤関連のインシデント報告及びインシデント発生を未然に防止するための医薬品取り扱いに関する留意点。 薬剤部からの医薬品安全性情報、日本医療評価機構からの医薬品に関する安全性情報	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
- 手順書の作成 (㊟・無) - 手順書の内訳に基づく業務の主な内容: 薬剤部、外来、医局長、薬事委員については、年2回(3・9月)、 病棟については、年4回(3・6・9・12月)、その実施状況をチェックリストにて確認	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
- 医薬品に係る情報の収集の整備 (㊟・無) - 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば):無し 未承認等の医薬品の使用事例はない。 適応外使用については、添付文書の定める用法・用量を超えた濃度および投与量での注射用カリウム製剤の使用について、付属病院倫理委員会にて審査、承認を受け、申請した診療科に限定して、オプアウトにて情報公開を行った上で、申請通り適切に使用されていることを確認している。定期的に投与後のモニタリングを行い、医薬安全管理委員会で報告している。 - その他の改善のための方策の主な内容: 薬品情報室が厚生労働省HP、PMDA、メーカー各社HP、製造販売業者HP、学術誌等で情報を収集している。得られた情報のうち必要と判断されたものについては医薬品を取り扱う職員を対象に以下の方法にて周知している。 部長会、医長会(院内会議)において説明。電子カルテの掲示板機能の活用。 医薬品情報(毎月)、薬剤部ニュース(随時)を、各部署に配布。	

(注)前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11 第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年42回
・ 研修の主な内容: 1) 特定機能病院における定期研修 2024年4月 ME機器全般(新入職研修医、看護師) 2024年4月 血液浄化(血液浄化センター看護師) 2024年4月 補助循環(ECMO)(高度救命救急センター医師、看護師) その他 19回 2) 新しい医療機器の導入時の研修 2024年4月 AVVIGO(臨床工学技士) 2024年12月 フローサイン(看護師) 2024年3月 TRUSYS(医師) その他 8回 3) その他必要に応じた研修 2024年5月 人工呼吸器(臨床工学技士) 2024年8月 人工呼吸器(医師、看護師) 2024年11月 CIED(臨床工学技士) その他 6回	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容: 〈人工心肺関連〉9月に定期点検を実施 〈補助循環装置〉5月～11月に各装置の定期点検を実施 〈人工呼吸器〉4月～3月に各装置の定期点検を実施 〈血液浄化装置関連〉4月～3月に各装置の定期点検を実施 〈除細動器〉5月、8月、11月、2月に定期点検を実施 〈保育器〉4月、7月、10月、1月に定期点検を実施	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば):無し ・ その他の改善のための方策の主な内容: PMDA、JCQHC等から発信される医療安全情報、医療機器製造および販売業者より発信される安全使用のための情報を収集し保管している。また、周知が必要な内容については医療機器の安全管理研修およびWebを使用した院内へのME部ニュースとして全体へ周知と報告をしている。医療機器の使用上のトラブルについても集計し院内勉強会などで周知をしている。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	☑・無
・責任者の資格(医師・歯科医師) ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 医療安全管理責任者は、医療安全管理部、医療に係る安全管理のための委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者を統括する。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	☑(5名)・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 医療安全管理委員会の下部組織として、医薬品安全管理委員会を設置し、医薬品安全管理責任者(薬剤部部長)が委員長を務めている。委員には医療安全管理者も含まれており、院内の医薬品に係る安全使用と事故防止及び適切な管理を行うため必要な対応を行っている。尚、委員会での決議は随時、医薬品安全管理責任者により医療安全管理委員会に報告を行っている。 ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成、従業員に対する医薬品の安全使用のための研修の実施、医薬品の業務手順書に基づく業務の実施、医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集、その他医薬品の安全確保を目的とした改善のための方策の実施 ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 未承認新規医薬品等の使用状況の把握等を適切に実施するための担当者を薬剤部病棟部門長と定め、病棟薬剤師が実務を担当している。 未承認新規医薬品等の使用予定の情報を入手した際は、担当医師に未承認新規医薬品等を用いた医療の実施に関する院内での手続きについて情報提供をしている。 適応外使用、禁忌薬などに関しては、病棟業務および調剤時に使用情報を収集し、未承認新規医薬品等を用いた医療の実施同様、担当医師に院内での手続きについて情報提供している。 使用に至った際はモニタリングを行い、適宜、医薬品安全管理責任者より院長に報告している。 ・担当者の指名の有無(☑・無) ・担当者の所属・職種:薬剤師 (所属:薬剤部, 職種:薬剤師、伊勢 雄也) (所属:薬剤部, 職種:薬剤師、三浦 義彦) (所属:薬剤部, 職種:薬剤師、岸田 悦子)	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	☑・無
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (☑・無) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 インフォームド・コンセントガイドラインに基づいて監査項目を設置し、定期的に質的・量的監査を実施している。順守率の低い項目に対し、インフォームド・コンセント委員会で周知のうえ、改善に繋げている。	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	☑・無
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容: 量的監査は退院全件に対して実施しており、入院診療計画書、侵襲的治療の説明と同意、手術、退院時要約等の記録に対して、約 40 項目を監査。 質的監査は月間約 40 件実施しており、診断根拠、入退院の説明や侵襲的治療の説明と同意、経過記録等の記録に対して、約 50 項目を監査。診療情報管理士による一次監査、該当診療科の上級医による二	

次監査、診療録管理室委員による三次監査を実施。また、担当医による自己点検も実施。 監査結果については担当医師、委員会、院長へ報告を実施しており、適宜改善指導を実施。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
・所属職員：専従(14)名、専任(3)名、兼任(15)名 うち医師：専従(1)名、専任(2)名、兼任(8)名 うち薬剤師：専従(2)名、専任(0)名、兼任(1)名 うち看護師：専従(5)名、専任(0)名、兼任(2)名 (注)報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： 1.医療に係る安全管理のための指針の整備に関すること 2.医療に係る安全管理のための委員会の開催に関すること 3.医療に係る安全管理のための職員研修の実施に関すること 4.事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の策定に関すること 5.その他医療に係る安全管理のための事務一般に関すること 6.院内の環境・設備ならびに職員の接遇に関する意見や苦情の対応に関すること 7.医療に係る安全管理に関する相談の対応に関すること 8.医療事故の渉外に関すること 9.個人情報の適正管理に関すること 10.個人情報の紛失、盗難、漏洩の防止に関すること 11.個人情報の紛失、盗難、漏洩時の対応に関すること ※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数(8件)、及び許可件数(8件) ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無(☒ ・無) ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無(☒ ・無) ・活動の主な内容： 1.高難度新規医療技術を用いた医療の提供に関する申請手続きに関すること(各診療科から提出される申請書類のチェック等) 2.医療提供の適否決定に関すること(委員会での意見を確認のうえ、適否について決定し、提供にあたっての条件等を定める) 3.医療提供後の確認に関すること(適否の決定後、提供を認めた医療の報告対象の全症例について適切に業務が実施されたか否かを確認のうえで院長報告を行い、必要に応じて実施体制の見直しを行う) ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無(☒ ・無) ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無(☒ ・無)	
⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	
・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数(0件)、及び許可件数(0件) ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無(☒ ・無) ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無	

(☒・無) ・活動の主な内容: 1.未承認新規(適用外は対象外)医薬品・医療機器等を用いた医療の申請手続きに関すること(各診療科から提出される申請書類のチェック等) 2.医療提供の適否決定に関すること(委員会での意見を確認のうえ、適否について決定し、提供にあたっての条件等を定める) 3.医療提供後の確認に関すること(適否の決定後、提供を認めた医療の報告対象の全症例について適切に業務が実施されたか否かを確認のうえで院長報告を行い、必要に応じて実施体制の見直しを行う) ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無(☒・無) ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (☒・無)
⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況 ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況:年 784 件 ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況:年 281 件 ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 医療安全管理委員会は、上記報告が適切に行われているかを確認し、その結果を院長に報告している。仮に報告が不十分であれば、必要な指導等を行っている。
⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況 ・他の特定機能病院等への立入り(☒ (病院名:慶応義塾大学病院)・無) ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ(☒ (病院名:慶応義塾大学病院)・無) ・技術的助言の実施状況 自己評価票の作成、自己評価票に対する確認事項・質問事項を事前提出のうえ、実施訪問形式で実施したところ、インシデントレポート報告数を増やす取り組み検討の技術的助言があり、院内各種会議等での協力依頼及び MET(院内急変時対応)要請対象患者の主治医報告、臨床研修医の年間 10 件の報告を必須とした。
⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 ・体制の確保状況 (設置状況等) ・窓口の名称:患者相談窓口 ・患者相談窓口の設置:平成 15 年 4 月 1 日 ・責任者の氏名及び職種:患者支援センター 部長(医師) ・対応部署:患者支援センター ・受付時間:月～金 9:00～17:00(受付時間 8:30～16:30) 土曜日 9:00～16:00(受付時間 8:30～15:30) ・規約の整備状況:日本医科大学付属病院 患者相談窓口運営規則(平成 17 年 4 月 1 日施行) (活動状況) ・患者への明示方法:院内 5 ヶ所(東館 1 階玄関、本館 1 階中央玄関、本館 1 階患者相談窓口、本館 1 階患者相談室前、本館 2 階正面玄関、)の他、入院案内パンフレット及びホームページでも明示している。
⑫ 職員研修の実施状況 ・研修の実施状況 診療録管理について [実施時期]令和 7 年 2 月 21 日 診療録管理室 室長 八島正明

(注)前年度の実績を記載すること(⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況
・研修の実施状況 1.管理者 公益財団法人 日本医療機能評価機構 2024 年度特定機能病院管理者研修 修了日:2025 年 2 月 3 日 2.医療安全管理責任者 公益財団法人 日本医療機能評価機構 2024 年度特定機能病院管理者研修 修了日:2024 年 11 月 26 日 3.医薬品安全管理責任者 公益財団法人 日本医療機能評価機構 2024 年度特定機能病院管理者研修 修了日:2025 年 2 月 14 日 4.医療機器安全管理責任者 公益財団法人 日本医療機能評価機構 2024 年度特定機能病院管理者研修 修了日: 2024 年 11 月 26 日 5. 医療機器安全管理責任者 日本医療機能評価機構 2024 年度特定機能病院管理者研修 修了日: 2024 年 11 月 26 日

(注)前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況
・第三者による評価の受審状況 令和 4 年 5 月 19 日～令和 4 年 5 月 21 日 ・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況 令和 5 年 2 月 6 日 当院ホームページにて公表 ・評価を踏まえ講じた措置 特記事項無し

(注)記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
・ 基準の主な内容 日本医科大学付属病院長選任規程 令和元年11月1日施行 令和5年4月1日改訂 任期、選定の基準、候補者選考の事由及び時期、選考委員会の設置、構成 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無(☒ ・無) ・ 公表の方法 学校法人日本医科大学ホームページに掲載

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				☒ ・無
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無(☒ ・無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無(☒ ・無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無(☒ ・無) ・ 公表の方法 学校法人日本医科大学ホームページに掲載				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
鈴木 秀典	学校法人日本医科大学 業務執行理事	○	・理事会において選任された理事(病院長選任規程第8条第1項第1号) ・学校法人の業務執行理事として、法人、大学、病院の組織管理・運営等に関する高い見識を有している。	☒ ・無
弦間 昭彦	学校法人日本医科大学 業務執行理事 日本医科大学 学長		・理事会において選任された理事(病院長選任規程第8条第1項第1号) ・学校法人の業務執行理事として、法人、大学、病院の組織管理・運営等に関する高い見識を有している。また、学長として、付属病院を含む大学を主管している。	☒ ・無
鈴木 浩悦	学校法人日本医科大学 理事 日本獣生命科学大学 学長		・理事会において選任された理事(病院長選任規程第8条第1項第1号) ・学校法人の理事として、法人、大学、病院の組織管理・運営等に関する高い見識を有している。また、学長として、大学を主管している。	☒ ・無

酒井 謙	東邦大学医療センター大森病院 院長 東邦大学医療センター大森病院 腎センター 主任教授		・理事長が本法人と特別の関係がない者の中から推薦し、理事会において承認された者（病院長選任規程第 8 条第 1 項第 2 号）・特定機能病院の院長として、病院の組織管理・運営等に関する高い見識を有している。	有・ 
須賀 晃一	早稲田大学 副総長		・理事長が本法人と特別の関係がない者の中から推薦し、理事会において承認された者（病院長選任規程第 8 条第 1 項第 2 号）・大学の副総長として、大学の組織管理・運営等に関する高い見識を有している。	有・ 

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置
及び運営状況

合議体の設置の有無			有・無
・合議体の主要な審議内容 病院の運営方針、中期計画、予算及び決算に関する事項 その他病院の管理運営に関する事項 人事異動報告、医療収入報告、医薬品情報報告、各種委員会における審議内容の報告 その他院長が必要と認める事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 各部署長が出席し、審議内容を職員へ周知している。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・☒ ） ・公表の方法 ・外部有識者からの意見聴取の有無（ 有・☒ ）			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 （○を付す）	職種	役職
山口 博樹	○	医師	院長
吉田 寛		医師	副院長/消化器外科部長/中央手術部部長
村井 保夫		医師	副院長/患者支援センターセンター長/脳神経外科部長/医師支援室室長
浅井 邦也		医師	副院長/循環器内科部長/医療安全管理部部長/臨床研修センターセンター長
鈴木 智恵子		看護師	副院長/看護部長
高木 元		医師	総合診療科部長/東洋医学科部長/救急・総合診療センター部長/老年内科部長/高気圧酸素治療室室長
須田 智		医師	脳神経内科部長/脳卒中集中治療科部長
酒井 行直		医師	腎臓内科部長
桑名 正隆		医師	リウマチ・膠原病内科部長
脇田 知志		医師	血液内科部長
岩部 真人		医師	糖尿病・内分泌代謝内科部長
厚川 正則		医師	消化器・肝臓内科部長
清家 正博		医師	呼吸器内科部長
笠原 寿郎		医師	化学療法科部長/がん診療センター部長/化学療法センターセンター長
舘野 周		医師	精神神経科部長
植田 高弘		医師	小児科部長
佐伯 秀久		医師	皮膚科部長
石川 真士		医師	麻酔科・ペインクリニック部長/ME部部長
岩崎 雅江		医師	緩和ケア科部長
林 宏光		医師	放射線科部長/医療情報センターセンター長
前林 勝也		医師	放射線治療科部長

武井 寛幸		医師	乳腺科部長
杉谷 巖		医師	内分泌外科部長
石井 庸介		医師	心臓血管外科部長
臼田 実男		医師	呼吸器外科部長
岡本 史樹		医師	眼科部長
後藤 穰		医師	耳鼻咽喉科・頭頸部外科部長
鈴木 俊治		医師	女性診療科・産科部長
近藤 幸尋		医師	泌尿器科部長
平尾 眞		医師	整形外科・リウマチ外科部長
小川 令		医師	形成外科・再建外科・美容外科部長
新井 正徳		医師	救急診療科部長
横堀 將司		医師	救命救急科部長/高度救命救急センター 部長
山田 岳史		医師	遺伝診療科部長/ゲノム先端医療部部長
清水 哲也		医師	がん診療科部長
山本 剛		医師	心臓血管集中治療科部長/内科系集中治 療科部長
大橋 隆治		医師	病理診断科部長
間瀬 大司		医師	外科系集中治療科部長
青柳 陽一郎		医師	リハビリテーション科部長/リハビリテーショ ン室室長
久野 彰子		歯科医師	口腔科(周術期)部長
寺崎 泰弘		医師	病理部部長
柏木 哲也		医師	血液浄化療法センターセンター長
辰口 篤志		医師	内視鏡センターセンター長
遠藤 康実		医師	臨床検査部部長
由井 俊輔		医師	輸血部部長
大塚 俊昭		医師	臨床研究総合センターセンター長
八島 正明		医師	保険診療指導部部長/診療録管理室室長
平間 章郎		医師	保険審査室室長
三井 亜希子		医師	腎クリニック所長
藤田 和恵		医師	医療安全管理部部長/感染制御室室長
伊勢 雄也		薬剤師	薬剤部部長
塚田 恭匡		事務職員	事務部部長
宮本 由紀夫		事務職員	事務部副部長
鈴木 健二		事務職員	事務部副部長
市川 裕紀子		事務職員	事務部庶務課長
水鳥 美幸		事務職員	事務部医事課長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・）
- ・ 公表の方法
- ・ 規程の主な内容

管理者は、病院の業務を統括し、所属職員を指揮監督すると共に、病院全体の円滑な運営に当たる。
 予算承認について、支出に拘わる案件の予算承認限度額を定める。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

【職名】副院長

 - 1.診療全般に関すること
 - 2.手術室運営に関すること
 - 3.収支改善に関すること(診療)
 - 4.医療経費削減に関すること(医療材料)
 - 5.医療連携に関すること
 - 6.医師の負担軽減に関すること
 - 7.業務改善に関すること
 - 8.医療安全、感染対策に関すること 2. 教育研修に関すること
 - 9.高難度新規医療技術に関すること
 - 10.看護部門に関すること
 - 11.患者安全管理に関すること
 - 12.患者サービス向上に関すること
 - 13.病棟稼働率、平均在院日数等の効率化に関すること
 - 14.収支改善に関すること(看護)
 - 15.医療経費削減に関すること(省エネルギー)
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

日本私立医科大学協会病院事務長会議、病院庶務研究会等に出席している。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況				☒ ・無	
・監査委員会の開催状況: 年 2 回 ・活動の主な内容: (1)医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務の状況に応じて自ら確認を実施する。 (2)必要に応じ、理事長又は院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講じるよう意見を表明する。 ・監査委員会の業務実施結果の公表の有無(☒・無) ・委員名簿の公表の有無(☒・無) ・委員の選定理由の公表の有無(☒・無) ・監査委員会に係る内部規程の公表の有無(有・☒) ・公表の方法: 学校法人のホームページへ掲載					
監査委員会の委員名簿及び選定理由(注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件該当状況
長島 隆	東洋大学名誉教授 付属病院倫理委員会委員	○	本法人と利害関係のない、医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者(規程第3条第1項第2号) 哲学、倫理学を専門とし、医療の公共性や医療倫理、医療現場における情報問題と情報倫理等に関する論文等を発表している。	有・ ☒	1
小泉 博明	文京学院大学名誉教授 付属病院倫理委員会委員		本法人と利害関係のない、医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者(規程第3条第1項第2号) 日本思想や生命倫理教育を専門とし、「病における人間学」、「病者への眼差し」等をキーワードに、多数の論文を発表している。	有・ ☒	1
櫻田 晋太郎	弁護士		本法人と利害関係のない、医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者(規程第3条第1項第2号) 医療問題弁護団に所属し、医療と人権をテーマに医療事件に関する調査、交渉、訴訟事件を多く取り扱っている。また、薬害肝炎弁護団に所属し、薬害の再発防止、個別救済等の取り組みにも力を入れている。	有・ ☒	1
豊田 郁子	患者・家族と医療をつなぐ NPO 法人架け橋理事長		本法人と利害関係のない、医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(規程第3条第1項第3号) 自身が医療事故で子息を亡くした経験から、患者・家族と医療者間の対話の重要性を痛	有・ ☒	2

			感し、患者の立場を代表する者として医療安全に関わる講演活動や公的な委員を務め、NPOでは医療対話推進者の養成に携わっている。		
吉田 寛	付属病院副院長（診療・手術担当）		付属病院の職員（規程第3条第1項第1号）若手医師の指導及び中央手術部部長としての臨床現場の経験等より、医療安全監査委員として適任である。	有・無	3

（注）「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況
・体制の整備状況及び活動内容 定期的(年1回)に管理者による病院の管理状況を確認する。必要に応じて臨時に確認を実施する。 ・ 専門部署の設置の有無(☒ ・無) ・ 内部規程の整備の有無(☒ ・無) ・ 内部規程の公表の有無(有・ ☒) ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 原則として毎月1回理事長が招集し、学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。 ・ 会議体の実施状況(年11回) ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数(☒有・無)(年11回) ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無(有・☒無) ・ 公表の方法			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称:			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の
情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無(☒有・無) ・通報件数(年 0 件) ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無(☒有・無) ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無(☒有・無) ・周知の方法 せんだぎる一るぶつくへの掲載、法人ホームページを用いて公益通報・相談窓口のメールアドレス等の連絡先を恒常的に職員に対して周知している。